

滋賀県立障害者福祉センター

令和2年度

年報

設置主体 滋 賀 県

指定管理者（公財）滋賀県身体障害者福祉協会

は じ め に

滋賀県立障害者福祉センターは、平成2年に「心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、教養の向上、健康の増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る」ことを目的として設置され、当協会が指定管理者として管理運営を行っているところです。

令和2年度は、第三期指定管理期間(平成28年度～令和2年度)の最終年にあたり、「利用者一人ひとりに寄り添い、ともに成長するセンター」を目指し、経営方針と経営目標の下、安全安心を基本に、質の高いサービスの提供に努めてまいりました。

しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症が世界的に広がり、令和2年3月から5月までの3か月にわたり臨時閉所をいたしました。その後も、感染症対策のために検温、手指消毒、体調確認をはじめとする利用の際のお願いや利用時間、利用人数などに制限を設けさせていただき、利用者の皆様には大変な御不便をおかけしています。

事業の実施においても、感染症対策に伴う制約があり計画通りに実施することは叶いませんでした。そのような中でも、ボランティアの皆様をはじめ、関係団体や関係機関の方々には温かい御支援と御協力を賜りました。誠にありがとうございました。

今後もしばらくは新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大防止策を取りながら、利用者の皆様が安全安心に御利用いただけるよう努めてまいりたいと思います。

今後とも、関係者の皆様の変わらぬ御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本書は、令和2年度の事業概要を年報としてまとめたものです。

御高覧いただき、御教示いただければ幸いに存じます。

令和3年7月

指定管理者 (公財)滋賀県身体障害者福祉協会
滋賀県立障害者福祉センター所長

目 次

I 事業の概要	1
1. 行事・交流・大会事業	1
2. スポーツ・文化教室	5
3. 更生相談事業	25
4. 養成・研修事業	28
5. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	29
6. 臨時閉所に伴う情報発信	31
7. プール閉鎖に伴う臨時開催教室	31
8. 登録ボランティア	33
9. お客様アンケート調査	34
10. 広報・啓発事業	36
11. 自主事業	37
12. 運営会議等	38
13. 研修状況等	39
II クラブ活動	40
III 利用状況	41
IV 利用者と支える人の声	47
V 施設の概要	49
VI 組 織	54

I 事業の概要

当センターは、新型コロナウイルス感染症に対する感染拡大防止対策を取りながら障害のある人を対象とした行事、スポーツ教室、文化教室、更生相談等の事業をライフステージ等に応じて実施するとともに、障害のある人の社会参加を進める取り組みの一環としての場を提供した。

1. 行事・交流・大会事業

夏休みわくわく体験広場

- (1) 期 間 令和2年8月10日(月・祝)
- (2) 参加人数等 63人
- (3) 目 的
障害のある人とその家族(介助者含む)が、不安定な社会情勢(コロナ禍)の中でも、楽しみを持ち、夏の思い出となるようにする。
- (4) 内 容 巨大迷路、スポーツ体験(ボッチャ)
- (5) 総 評



緊急事態宣言解除後、最初のイベントのため、実施方法の検討を重ね、人との接触を減らすための動線を考慮するなど、新型コロナウイルス感染症対策をとって実施した。

夏を感じてもらえるようにお化け屋敷や花火大会を連想できる装飾を施した巨大迷路を演出し、楽しんでもらった。また、パラリンピックの正式種目であるボッチャを、障害の程度に関わらず楽しめるレクリエーションや試合形式によりルールを学びながら体験してもらった。参加者からは、「コロナ禍で多くのイベントが中止される中、今回のイベントが開催されて良かった」「久しぶりに子供が元気に走り回る姿が見られて嬉しかった」「コロナ対策が徹底されており、安心して催しに参加できた」等の感想があった。

障害者週間啓発イベント(清掃)

- (1) 期 間 令和2年11月19日(木)
- (2) 参加人数等 74人
- (3) 目 的
障害のある人が清掃活動を通して障害者福祉についての関心と理解を深めるためのきっかけとし、広く社会にアピールするとともに、障害のある人自らも社会貢献活動に積極的に参加する意欲を高める機会とする。
- (4) 内 容 福祉ゾーン一帯の清掃活動
- (5) 総 評



近隣施設と当センター利用者、登録ボランティアと共に協力して、福祉ゾーン一帯の清掃活動を行った。マスクの着用や手指消毒、開会式を簡素化する等の新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで開催した。参加者自らが積極的に歩道の落ち葉やゴミを収集し、落ち葉で一杯になっていた歩道が、1時間程度で綺麗な歩道になった。

参加者からは、「皆で協力したことで達成感があった」「歩道が綺麗になり、歩きやすくなった」等の感想があり、清掃活動を通して達成感や活動の成果を実感した様子だった。

障害者週間啓発イベント（レッツイベント）

(1) 期 日 令和2年12月20日(日)

(2) 参加人数 264人

(3) 目 的

障害のある人が交流をする中で、相互の障害について理解や認識を深め、あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高める機会とする。

(4) 内 容

ーサンタさんはどこ？探しに行こう！ー 巨大迷路

ー不思議体験！作ってみよう！ー スノードーム制作体験

ーみんなで“映え”な写真を撮ろう！ー フォトスポット

ー自分だけのオリジナルバッジを作ろう！ー 缶バッジ

(5) 総 評

このイベントは、障害者週間の啓発を目的に障害のある人もない人も楽しく体験や交流ができる内容で開催して来たが、今年は参加対象を県内在住の障害のある人とその家族・介助者とし、季節を感じられしみながら体験できる催しとした。新型コロナウイルス感染防止対策をとった上での開催は、制限やお願いも多くあったが、「コロナの中で安心して楽しめる場所を作っていただき有難い。子供の笑顔を見ることができ、久しぶりに子供と一緒に笑えてとても嬉しいです」との感想もあった。



はつゆめランド

(1) 期 日 令和3年1月11日(月・祝)

(2) 参加人数等 44人

(3) 目 的

障害のある人とその家族(介助者含む)に季節感を取り入れた内容を提供することで、新たな年の活動へ積極的に参加する機会とする。

(4) 内 容

お正月あそび(すごろく・福わらい・おみくじ等)

(5) 総 評

センター初の試みとなる「お正月あそび」を楽しめる催しを開催した。

すごろくのコンセプトは「旅行」。コロナ禍でなかなか旅行できないことから、旅行気分です西日本・東日本を巡る内容とした。参加者自身がコマとなり、サイコロの数字分、マス目を進んでゴールを目指してもらった。

参加者からは、「コロナでどこへも行けない中、楽しい時間を過ごすことができました」「簡単にできる内容だったので、やってみたい!と思えるのがよかった」などの声があった。

※本事業は、中止となったスポーツ吹矢大会の代替えとしてプール閉鎖期間中に開催した。



わくわくコンサート

(1) 期 日 令和3年2月20日(土)

(2) 参加人数等 20人

(3) 目 的

利用者サービスの向上を図るとともに、障害のある人が交流を深め、あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高める機会とする。

(4) 内 容

① 民族楽器ライブ

② リズムワーク(演奏体験)

③ サウンドヒーリング

出演：Hibiki × desert (メンバー：田邊響氏、外村義郎氏)

(5) 総 評

参加者は、形や大きさ、音色が違う様々な世界の楽器を用いた生演奏を楽しんでいた。リズムワークでは、手拍子のリズムを隣の人とずらして打つことで、様々なリズムの手拍子が合わさる間隔を体験したり、楽器を用いてのリズムワークを体験した。

また、サウンドヒーリングでは、楽器が奏でる癒しの音色をマットに横たわりながら聞くなど、リラックスする様子が見られた。

参加者からは、「初めて見る楽器の音がとても素敵でした」「次もまた見たことのない楽器で開催してほしい」等の感想が聞かれた。



第37回水泳記録会

(1) 期 日 令和2年11月23日(月・祝)

(2) 参加人数等 92人

(3) 目 的

新型コロナウイルス感染症対策への安全対策をとり、選手が安心して参加し、自己記録の向上を目指し社会参加の推進を図る。

(4) 内 容

第1部【水中チャレンジ】25mに挑戦・水中レクリエーション

第2部【記録会】自由形・背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライ(各25m・50m)

(5) 総 評

対象者を県内の障害のある人でマスク着用が可能な方として、入場規制や受付・ウォーミングアップの時間指定を行うなど、新型コロナウイルス感染症対策を取ったうえで実施した。

第1部では、25m完泳を目指し頑張っている姿に会場が拍手に包まれ温かい雰囲気となった。滑り台や浮島渡り等の水中レクリエーションでは、笑顔が多くみられ、楽しまれている様子が伺えた。第2部では、日頃の練習の成果を存分に発揮され、自己新記録達成に喜ぶ姿が見られた。参加者からは、「コロナ対策をしながらの記録会でしたが十分満足できた」「とてもよい1日となった」等の感想が聞かれた。



ボッチャ交流大会

(1) 期 日 令和3年3月14日(土)

(2) 参加人数等 32チーム 計76人

(3) 目 的

各地域・団体で日々集い練習する機会を増やすことにより、地域の活性化と健康の増進を図り、また地域間の交流を促進するため、交流大会を実施する。

(4) 内 容

ペア戦で行い、予選リーグ、順位決定トーナメント、決勝、三位決定戦を行う
試合は2エンドで行い、各チーム持ち時間は5分とする

(5) 結 果

優 勝 大津市市身体障害者連合会③チーム 滋賀県身体障害者福祉協会会長賞 草津市
準優勝 彦根市身体障害者更生会②チーム 障害者福祉センター所長賞 高島市
第三位 湖南市身体障害者更生会②チーム

(6) 総 評

予選リーグ、順位決定トーナメントとゲームをこなす毎に、白熱したゲームが多くなり、最後の決勝戦、3位決定戦は参加者全員が見守る中、一投一投の攻防にどよめきが起こるほどの好ゲームとなった。

参加者からは、「コロナ禍で参加人数を増やすことは難しいと思うが、楽しい交流の機会なので、多くの仲間と参加できるように検討してほしい」という声を多くもらった。



2. スポーツ・文化教室

スポーツ・文化教室開催状況

教 室 名		対 象 者	期 間	曜 日	回 数	時 間 帯	定 員	延 受 講 者 数
スポーツ 入門教室	グラウンドゴルフ定例会	身体障害者・精神障害者・障害のない人	10/9～2/5	金	3	13:30～15:00	25人程度	33人
	リズムでダンス教室	知的障害者（中学生以上）	1/16～3/27	土	6	13:30～14:30	20人	170人
	アクアビクス教室	障害のある人・障害のない人	7/25～3/27	土	8	10:30～11:15	20人程度	114人
	ハッスル教室	知的障害者（36歳以上）	7/12～1/10	日	4	12:00～12:50	10人程度	25人
	チャレンジボッチャ教室	障害のある人・障害のない人	8/28～2/26	金	4	13:30～15:00	25人程度	25人
	※はじめてスイム教室	障害のある人・障害のない人 (25m泳げない人)	8/21～2/19	金	4	12:00～12:50	—	4人
	障害者スポーツ指導支援	障害者団体等	通年	—	30	—	—	515人
重度障害者 対象教室	水中くらくくアドバイス	重度の肢体障害者とその介助者	通年	—	10	—	—	21人
ジュニア 対象教室	体の使い方（幼児）教室	知的・発達障害の4・5歳児とその親 (身体除く)	8/30～9/27	日	5	10:00～11:00	10組	67人
ステップ アップ 教室	卓球初級教室	障害のある人	7/16～3/18	木	9	10:00～11:30	4人程度	1人
	卓球ラリートタイム	障害のある人・障害のない人					16人程度	208人
	水泳初級教室	障害のある人（中学生以上35歳まで）	9/6～10/25	日	6	16:30～17:30	20人	158人
	水泳中級教室							
	水泳上級教室							
	水泳選手育成教室	小学校6年生以上の障害のある人で、競技会への出場を希望し、高い意欲で練習会に参加できる人	7/3～3/19	金	32	18:30～20:30	15人程度	948人
	バスケットボール選手育成教室	草津養護学校区の知的・発達障害のある高校生以上と高等養護学校でバスケットを行っていた人で、競技会への出場を希望し、高い意欲で練習会に参加できる人	6/13～3/27	水・土・祝	30	水 15:00～16:30 土・祝 10:00～12:00	20人程度	278人
個別サポート	水泳個別アドバイス	障害のある人	通年	—	—	—	一日最大4人	59人
	健康・運動個別アドバイス	障害のある人（中学生以上）	通年	—	—	—	一日一人(組)	1人
測定・評価	体力測定・トレーニングアドバイス	身体障害者・精神障害者	10月28日	水	1	13:30～15:30	25人	12人
	体組成測定会	障害のある人・障害のない人	2月14日	日	1	13:00～16:00	30人程度	5人
バック アップ	琵琶湖一周に挑戦	障害のある人・障害のない人	通年	—	—	—	—	445人
	日本縦断に挑戦	障害のある人・障害のない人	通年	—	—	—	—	15人
	※泳法別スイム	障害のある人・障害のない人 (各種目泳力25m以上でその日の種目を希望する人)	7/5～3/6	土・日	4	12:00～12:50	—	15人
	タイムトライアル	障害のある人	11/15、12/5	土・日	2	16:30～17:45	20人程度	16人
地域支援	※地域体の使い方教室 (幼児と親) 湖北・湖西	長浜・新旭養護学校区の知的・発達障害のある4・5歳児(身体除く)とその親	11/22～3/28	日	5	9:30～10:30	10組	90人
	※地域体の使い方教室 (ジュニア) 湖北・湖西	長浜・新旭養護学校区の知的・発達障害のある小学生(身体除く)				11:00～12:00	15人	130人
	地域短期水泳教室 湖北・湖東 親子	長浜・甲良養護学校区の身体・知的・発達障害のある小学生とその親	11/21～3/20	土	5	9:15～10:15	15組	95人
	地域短期水泳教室 湖北・湖東 初級・中級・上級	長浜・甲良養護学校区の身体・知的・発達障害のある人(中学生以上)				10:30～11:30	20人	150人
	地域短期水泳教室 湖西 親子初級・中級	新旭養護学校区の知的障害のある小学生とその親	11/14～3/13	土	5	13:30～15:00	6組	60人
	地域短期水泳教室 湖西 初級・中級	新旭養護学校区の知的障害のある人(中学生以上)					12人	28人
	障害者スポーツ体験指導事業	障害のある団体等	通年	—	—	—	—	84人
文化・教養	パソコン教室	身体障害者・精神障害者(小学3年生以上)	11月28日	土	1	13:00～16:00	10人	6人
	茶道教室	障害のある人(中学生以上)	9/12～2/13	土	6	13:30～15:30	10人	79人
	生け花教室	障害のある人	9/6～12/6	日	4	13:30～15:00	10人	30人
	絵画教室 スマイル☺	障害のある人(小学4年生以上)	9/13～1/17	日	5	13:30～15:30	15人	88人
	※手作り体験教室	障害のある人とその介助者	12月13日	日	1	10:00～11:30	15人	9人
	※ハーバリウム教室	障害のある人とその介助者	2月6日	土	1	13:30～15:30	15人	19人
	※苔玉作り教室	障害のある人とその介助者	3月6日	土	1	13:30～15:30	15人	13人
	将棋と囲碁のつどい	障害のある人・障害のない人	9/27～3/28	日	6	10:00～16:00	15人程度	47人
地域支援	地域文化教室	障害のある人とその介助者	通年	—	4	—	各15人程度	40人

[注] ※は令和2年度新たに開催した教室

グラウンドゴルフ定例会

(1) 目的

障害のある人もない人も、グラウンドゴルフを通して楽しく交流を深めるなかで、健康の増進および社会参加の促進を図る。

(2) 内容

- ① 6ホールをグループで2周回る
- ② 毎回スコアを付けて、成績上位者およびホールインワン達成者を発表する
- ③ 成績は、後日多目的ホールに掲示する



(3) 総 評（参加者等延べ33人）

コロナ禍の影響により、全5回のうち前半2回を中止した。再開時には、参加者間の距離を取るため、ホール数を8ホールから6ホールに減らして実施したが、十分に楽しんでもらえるように、2回ラウンドしてもらうこととし、12ホール制とした。新たな形での開催に参加者からは、ラウンド数は、調度良いとの声が聞かれた。社会情勢の変化や、利用者ニーズに沿った内容を再検討し、より良い定例会にしていきたい。

参加者からは、「初めてだったが、丁寧に教えていただき、思っていたより上手くプレーできた」「とても良い運動とリフレッシュになっている」等の感想が聞かれた。

リズムでダンス教室

(1) 目的

音楽に合わせて楽しく体を動かすことで運動量を確保し、体力の維持向上と社会参加の促進を図る。

(2) 内容

- ① 音楽に合わせてウォーミングアップ
- ② メイン曲でダンス
(曲名：A・RA・SHI)
- ③ クールダウン：ストレッチ



(3) 総 評（受講者等延べ170人）

新型コロナウイルス感染症対策として、手指消毒、換気の徹底、受講者の間隔をあけるため、立ち位置がわかるように床に目印をつける等工夫をして行った。

今年度は、メインダンス曲のテンポを遅くし、振り付けを丁寧に繰り返し練習したことで、できる動きが増え、とても楽しそうに踊っていた。また、例年にない感染症への対策や教室の流れについて、見通しを持つための説明を行ったことで、スムーズに取り組むことができた。

休憩時や教室終了後にも、ダンスを練習するなど意欲的に取り組む姿がみられた。

受講者からは、「教室日のカレンダーを見て、毎回楽しみにしていた」「次年度も参加したい」等の感想をもらうことができた。

アクアビクス教室

(1) 目 的

水中で動くことの楽しさを体験し、体力の維持増進・機能回復と社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

リズムに合わせて基本的な動きを中心とした水中運動を行う

①ウォーミングアップ:水中ストレッチ

②基本動作:上・下半身、前後左右の移動
ステップ等の部分動作

③部分動作を組み合わせたのアクアビクス

④クールダウン:水中ストレッチ、リラックス



(3) 総 評 (参加者等延べ 114人)

新型コロナウイルス感染症対策の一つとして、参加者間の間隔をあけ、実施スペースを確保するために、試行錯誤しながら実施してきた。

多くの参加者から、「毎月楽しく、元気をもらっている」「陸上ではできない動きを水中では楽しくできる」等の声が聞かれた。

参加者同士や講師との交流もあり、毎月元気に教室へ参加されていた。

ハッスル教室

(1) 目 的

知的障害のある人が、プールやトレーニング室で楽しみながら無理のない運動を行い健康と体力の維持を図る。

(2) 内 容

プール

ラジオ体操・水中歩行・水中運動・伏し浮き・板キック・クロール 等

トレーニング室

ラジオ体操・コードレスバイク・腹背

筋・レッグカール・レッグエクステンション・開閉脚・ストレッチ 等



(3) 総 評 (参加者等延べ 25人)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より第1回目のトレーニング室での回は中止した。第2回目以降プールでは泳法を中心としたグループと歩行・歩き方のグループに分けて進めた。運動量の確保を目的の一つに置き、指導員の見本をしっかり見て取り組み、毎回「できた!」の達成感を持ち帰れるよう、工夫した指導を心掛けた。

また、トレーニング室では、久しぶりにトレーニング機器に触れる方が多く、改めて一つ一つ使い方を説明した。顔にも力が入るなど一生懸命にトレーニングに取り組む姿が印象的だった。

チャレンジボッチャ教室

(1) 目 的

ボッチャの基本知識およびルール等を理解し、楽しみながら実践することにより、社会参加の促進を図るとともに、裾野を広げる。

(2) 内 容

- ① その日の内容に沿ったウォーミングアップ
- ② 様々な展開を想定した戦術練習やレクリエーション
- ③ ゲーム



(3) 総 評（参加者等延べ25人）

今年度はコロナ禍の影響もあり、全6回開催予定のうち、4回の開催となった。

ウォーミングアップでは様々な投げ方やフープなどを用いて距離・方向の調節を行った。参加者は上級の方が大半であったことから、戦術練習を多く取り入れ参加者と共に考えながら実施した。参加者同士でどのように攻め、守るのかを積極的に話し合いされている姿が印象的だった。

ゲームでは展開を一瞬で変えてしまうスーパーショットも回を重ねるごとに多く出るようになった。

参加者からは、「様々な道具を用いながら上手・下手に関係なく、誰でも勝つことができるチャンスがあるようなレクリエーションを体験できて、大変面白かった」等の感想をもらうことができた。

はじめてスイム教室

(1) 目 的

水中での体の使い方を覚え、楽しく水泳に取り組めるようにする。

25m泳げることを目標とする。

(2) 内 容

水慣れ、伏し浮き、腰掛キック、板キック、プル、スイム、呼吸



(3) 総 評（参加者等延べ4人）

参加者は少なかったが、毎回熱心に参加され、回を重ねる毎に上達が見られた。特に水に慣れることで体の力が抜け、自分の体を動かしたいように動かせるようになり、スムーズにクロールを泳ぐことができるようになった。

水泳の基本が詰まった教室であり、指導員も勉強することができた。また、一緒に練習メニューをこなすことで、参加者と指導員が互いに水泳の基本を確認する機会にもなった。

(1) 目的

当センターから遠隔地にある団体およびセンターを定期的に利用する施設等が実施する障害者スポーツやレクリエーション等の事業に対して、当センター指導員が指導を行い、県民の健康維持・増進、余暇の充実を図るための一助とする。



(2) 内容

① 療育教室

- ・湖の子園(草津市)受講者等延べ 55人 全2回
(なかなか計画が立てられず、当初から2回でスタートして開催した)
水慣れ、水中での体の使い方、介助方法
- ・にこにこ教室(野洲市) 受講者等延べ79人 全4回(内2回中止)
父親との運動遊び、体の使い方と家でもできる親子遊びの紹介
水慣れ、水中での体の使い方、介助方法(計画のみ)
- ・めだかの学校(東近江市) 受講者等延べ 0人 全6回 (全て中止)
水慣れ、水中での体の使い方、介助方法(計画のみ)
- ・くれよん(日野町)受講者等延べ 0人 全2回 (全て中止)
水慣れ、水中での体の使い方、介助方法(計画のみ)
- ・たっぴー(竜王町) 受講者等延べ0人 全3回 (全て中止)
水慣れ、水中での体の使い方、介助方法(計画のみ)

② 遠隔地

- ・湖西地域障害者生活支援センターわになろう(高島市)受講者等延べ201人 全8回
体の動かし方と補強運動・レクリエーション・軽スポーツ(ボッチャ)
- ・湖西総合在宅サービスセンターほろん(高島市) 受講者等延べ74人 全7回
水泳・水中歩行・水中でのリラクゼーションと軽スポーツ

③ その他

- ・県立精神医療センターディケア『joy(ジョイ)スポ』(精神障害者)全9回、
- ・県立精神医療センターディケア『へいおん』(発達障害者) 全3回(内1回中止)
受講者等延べ106人 計12回(内1回中止)
基礎的な補強運動と軽スポーツ、体力測定の実施
熱中症とAED、体の使い方についての講義

(3) 総 評

- ① 今年度は、コロナウイルス感染症拡大防止の観点から全県的にプールでの活動を自粛されているところが多く、本事業の対象である療育教室でも多くが中止された。
延期して開催したプールの指導では、水の特性や体の使い方、水の楽しみ方を一人ひとりに伝えた。また、保護者や保育士には介助の基本姿勢やお子さん一人一人にあった介助方法を指導した。
陸上での運動遊びでは、ハイハイやジャンプ、ケンケンなど全身を使った運動や体の使い方を行った他、自宅で親子一緒にできる内容を実施した。
- ② 遠隔地(高島市)の指導については、体の使い方や補強運動、牛乳パックやフープを使用したサーキットを行い、一定の運動量が確保できるように指導を行った。また、8回の指導で、後半の5ヶ月はボッチャを行い、最終回には試合を行った。
また、プールでは、個々の目的に応じた指導を行った。
- ③ 精神医療センターのグループ「へいおん」では、昨年と異なり、熱中症やAED、体の使い方についての講義を行った。
「joy スポ」では、毎年行っている年に2回の体力測定の他、補強運動や軽スポーツを行った。軽スポーツについては数か月続けて行うことで技術の向上が見られた。
また、補強運動については受講者の体力の維持増進につながった。
それぞれの支援事業において、アンケートで高い評価をもらうことができた。

水中らくらくアドバイス

(1) 目 的

身体(肢体)に重度の障害がある人が、水中でリラックスして楽しく体を動かす。介助者は、対象者と自らの負担が少なく、効果的な介助法を身につける。

(2) 内 容

リラクゼーション、背浮き・伏浮きなど個々に応じた介助方法、補助具の有効な使い方等



(3) 総 評 (参加者等延べ21人)

身体(肢体)に重度の障害があり、プール(水)に慣れていない方、なかなか身体の緊張がほぐれない方や、どのように介助してよいのかわからない介助者に対し、一人ひとりに応じた体の動かし方やリラックス方法、その人に合った補助具の使い方などについて、参加者・介助者双方に負担が少なく効果的な介助方法等をアドバイスした。

参加者からは「補助具を使うことで本人も介助者も楽に浮ける・浮いてもらえることが分かった」「介助する体勢を変えることで、介助する側も楽にできることが分かった」などの声が聞かれた。

重度身体障害者の介助方法について指導員研修を行い、さらにスキルアップを図りたい。

体の使い方(幼児)教室

(1) 目 的

楽しく身体を動かしながら身体の使い方を覚える。

(2) 内 容

- ①サークルでの運動(親子で座ってスキンシップあそび、座位での体ほぐし、ジャンプ、バランス、片足立ち、起き上がり)
- ②ミニフープを使った運動(体のぼし、くぐり、両足ジャンプ、ぐるぐるジャンプ)
- ③サーキット(基本動作を組み合わせたメニュー)



(3) 総 評 (受講者等延べ67人)

新型コロナウイルス感染症対策として、生活を共にしている者(親子)で行なう運動やサーキットを中心に行い、自宅でも親子でできる体の使い方遊びを併せて伝えた。サーキットでは、前半に行った基本動作のほか日頃なかなかできない動きを取り入れ、受講者とその親に体を動かすことが楽しいと感じられるよう、内容には工夫を心掛けた。

受講者からは、「見ていて怖かった動きに安定感が出て、今までやらない・できない動きにも自ら挑戦できていた」「子供と親にとって良い経験・良い時間を提供していただけた」等の感想が聞かれた。

卓球初級教室

(1) 目 的

卓球の基本技術を身につけ、ラリーができるようになるとともに、スポーツの楽しさを実感する。

(2) 内 容

- ① ラケットや卓球台等道具の説明
- ② フォアハンドのフォーム・フットワーク・打ち方の説明と実践
- ③ ポイントを意識しながらのラリー

(3) 総 評（参加者等延1人）

ラケットの種類や持ち方の説明から、フォアハンドを中心としたストローク練習を主に指導した。職員からの指導だけではなく、当センター登録ボランティアの協力もあり、最終的にはラリーが長く続けられるまで向上した。回を重ねるごとに部分練習だけではなく全体を通して上達が見られた。参加者からは「楽しく参加でき、できることが増えて嬉しい」との声が聞かれた。



卓球ラリータイム

(1) 目 的

多くの相手とラリーを行い、交流を深める中で技量を高めていく。

(2) 内 容

ラリータイムとSTTラリー(サウンドテーブルテニス)に分かれて実施し、ラリーを行いながら、ワンポイントアドバイスをを行う

(3) 総 評（参加者等延べ208人）

今年度は、コロナ禍の影響で7月からの開催となった。マスクや手指消毒の対策を行いながら実施した。参加者同士でラリーを楽しむことで程よく汗をかき、ラリーを楽しむ参加者の姿が見られた。

STTでは、初心者から大会優勝者までの幅広い技術力の参加者同士で、お互いに教え合う場面が多く見られた。それぞれ、ラリーを通して楽しみながら技術向上を目指してもらった。

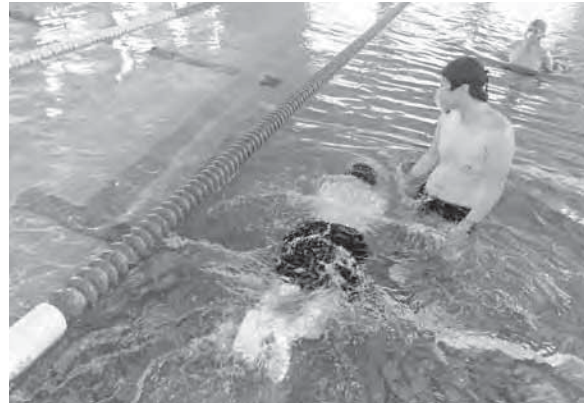
参加者からは「とても楽しく汗がかけれる」「いろんな人とラリーを続けられることが楽しい」等の声をもらうことができた。



水泳教室

(1) 目 的

障害のある人が目標を持ち、練習を通じて技術を高める。集団活動の中で社会性を養い、健康の増進と社会参加の促進を図る。



(2) 内 容

①各種目(泳形)・泳力レベル(初級・中級・上級)別に指導

②泳ぎの基本から泳法(キック・手回しのドリル練習、スイム、スタート練習等)

(3) 総 評 (受講者等延べ158人)

新型コロナウイルス感染症対策として、指導者はプール用マスクの着用、受講者同士の距離の確保等内容を工夫して開催した。初級(4人)、中級(6人)、上級(4人)に分かれ、泳力に応じた内容に取り組むことができた。「本人に合った声掛けをしてくださっていたので、安心して参加できた」「一人ひとりのできている所、できていない所をよく見て指導してもらえた」等の感想が聞かれ、受講者個々に丁寧に指導・対応することができた。

水泳選手育成教室

(1) 目 的

県障害者スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会への出場を目指す新たな選手の発掘・育成を行う。

(2) 内 容

定期練習会の実施(毎週1回)

①陸上練習(アリーナ)

準備体操や柔軟運動・体幹を中心とした筋力トレーニング

②水泳練習(プール)

泳力別グループ指導・泳法練習・飛び込み練習



(3) 総 評 (受講者等延べ948人)

陸上練習では、足首と肩の柔軟性を意識したトレーニングを行った。体の使い方に意識が持ちにくく、上手い出来ない受講者もいたが、繰り返し行うことによりできるようになってきた。また、プールでは、キックとスイムを繰り返し行い、設定タイムを早め徐々にハードな練習になっていくことに対し、全員で取り組み、乗り越え、達成感を得るなど、充実した練習を行うことができた。

バスケットボール選手育成教室

(1) 目的

2025年に滋賀県で開催される『第24回全国障がい者スポーツ大会』に向けた選手の発掘と育成を図り、県大会出場を目指す。

(2) 内容

準備運動：ストレッチ

補強運動：腕立て・ハイハイ・もも上げ・両足ジャンプ・ケンケン・バービー

ジャンプ・障害物ダッシュ・サイドステップ・ダッシュなど

基本練習：ボールハンドリング、ドリブル、パス練習など

応用練習：レイアップシュート、ドリブルシュート、パス&シュート(2人組・3人組)、ドリブルなし(3対2、5対5)、ミニゲーム

(3) 総評（受講者等延べ278人）

前半は、怪我をしない体づくりや体の使い方を習得するための補強運動を行い、後半は、バスケットボールの基本練習から応用練習を行った。また、県大会は中止となったが、それに代わる交流大会が開催され、試合を経験できる良い機会となった。制限のある中での練習の成果が、試合結果につながらなかったことは残念だったが、次へつながる課題を得ることができた。



水泳個別アドバイス

(1) 目的

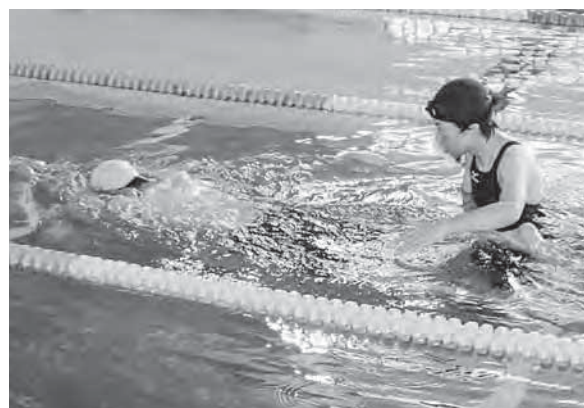
水慣れしていない人や、水泳経験の少ない人がそれぞれの泳力に合った入水やリラックス方法または泳法を習得する。

(2) 内容

個人の目的・希望に応じた指導(歩行、水慣れ、四泳法など)

(3) 総評（受講者延べ59人）

新型コロナウイルス感染症対策として、指導員はプール用マスクの着用をしたうえで指導を行った。個別アドバイスは、個々に合わせたプログラムを提供できるため、好評を得ている。今年度は小学生や中学生の受講が多い傾向が見られ、その多くは継続して受講されている。回数を重ねる毎に技術の向上が見られ、それが自信や、やる気につながり、水泳を継続するきっかけになっている。当センターの更なるプール利用や、水泳記録会の参加等にもつなげていきたい。



健康・運動個別アドバイス

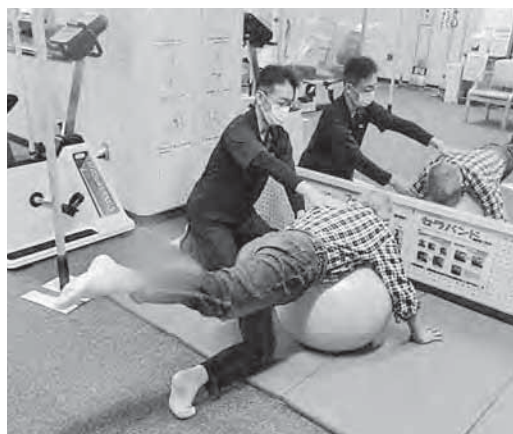
(1) 目的

個別にアドバイスを行うことで、運動経験の少ない人が安心して受講でき、それぞれの障害や体力に合った基本的なストレッチのやり方や効果的な運動の方法を習得する。

(2) 内容

個人の目的・希望に応じた指導

体組成測定による体成分分析(脂肪量や筋肉量等の測定による部位別評価)



(3) 総 評 (受講者1人)

受講者のニーズに応じた指導を45分間マンツーマンで行った。体組成測定により自分の筋肉量や体脂肪量等、体の状態を理解することで、ストレッチや運動方法を行う際の参考となり、健康に対する意識を高めることができた。

また、家族の方も一緒に話を聞き、自宅で簡単にできるトレーニングを紹介することで更にリハビリを継続することとなった。これをきっかけにしてトレーニング室の継続的な利用にもつながっている。

体力測定・トレーニングアドバイス

(1) 目的

身体障害者および精神障害者に自己の体調や体力の現状を正しく理解してもらうため体力測定を実施し、測定結果に基づいて専門的なアドバイスを行う。また、個々に栄養指導を行い今後の健康の維持増進および社会参加の促進を図る。

(2) 内容

①身長、体重、血圧、握力、長座体前屈、ファンクショナルリーチ、開眼片足立ち、10M最大歩行、タイムドアップ&ゴーテスト、大腿周囲・下腿周囲の測定、体組成計による体組成分析

②理学療法士からのトレーニングアドバイスおよび管理栄養士からの栄養指導



(3) 総 評 (受講者等延べ12人)

新型コロナウイルス感染症対策として、人数制限をし、受付の時間帯を分けて開催したことで、受講者には安心して測定してもらうことができた。受講者からは「自粛生活で運動不足からくる体力の低下を実感した」「積極的に体を動かすことの大切さを認識した」との声があり、受講者はこれまで以上に自身の体力や運動について強く意識されていた。

体組成測定会

(1) 目 的

障害のある人もない人も自己の体調の現状を正しく認識してもらうため体組成測定会を実施し、測定結果に基づいて個人評価を行う。また個人評価に基づいて個々の体の状態により、今後の健康の維持増進、および社会参加の促進につなげる。



(2) 内 容

体組成測定(体脂肪率、筋肉量、体水分量、肥満度等)

(3) 総 評 (参加者等延べ5人)

6月、2月の全2回開催を予定していたが、6月は新型コロナウイルス感染症の影響で、中止とした。2月は、測定前の手指消毒、測定毎の機器消毒等の感染症対策を講じたうえで開催した。参加者の中には「現在の体の状態が知れたかった」と真剣な様子で測定結果を聞き、その後にはプール利用につながった方もおられた。また、「今回の結果を意識しながらトレーニングをしていきたい」等の感想も聞かれ、現在の体の状態を知ってもらうことで、今後意識すべきポイントを知ってもらえる機会になった。

琵琶湖一周に挑戦

(1) 目 的

水泳と水中歩行に一定の目標を持ち挑戦することにより、体力増進と社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

- ① 琵琶湖一周＝JR換算距離178kmとする
- ② 泳いだ距離または歩いた距離を、個人カードに記入する
- ③ 毎月のトータル距離を翌月の月初めに集計し、結果を掲示する
- ④ 達成回数に応じて記念品、メダルまたは達成証を贈呈し、年間40回(今年は開所日数を考慮した)以上挑戦された方には記録証を授与する
- ⑤ 参加者全員に1年間(1月～12月)の個人カードを記録冊子にして交付する



(3) 総 評 (参加者等延べ445人)

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため臨時閉所(3月2日～6月7日)となり、センターを閉鎖する期間が生じた。プール営業再開後、参加者は、改めて「琵琶湖を一周する」という目標に向けて、挑戦を再開された。授与式では、「表彰されて嬉しかった」等の声が聞かれ、コロナ禍における特別な感慨深さを感じられているようだった。

日本縦断に挑戦

(1) 目 的

エアロバイクやトレッドミル等での運動に一定の目標を持ち挑戦することにより、体力増進と社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

- ①日本縦断は、北海道から沖縄までの鉄道・新幹線・飛行機を組み合わせた換算距離3,418kmとする
- ②エアロバイクまたはトレッドミルで進んだ距離を個人カードに記入する
- ③毎月のトータル距離を翌月の月初めに集計し、結果を掲示する
- ④達成回数に応じて記念品、メダルまたは達成証を贈呈し、年間50回以上挑戦された方には記録証を授与する(はじめから達成者が見込めなかったため、コロナではあったが回数の見直しはせず)
- ⑤参加者全員に1年間(1月～12月)の個人カードを記録冊子にして交付する



(3) 総 評 (参加者等延べ15人)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、トレーニング室を閉鎖(3月2日～10月11日)し、また再開後も、人数制限を設けての利用としたため、縦断達成者、また50回以上挑戦された方はなかった。改めて運動に一定の目標を持ち、継続した利用による体力増進と社会参加の促進につながるよう新規参加者の獲得に努めたい。

泳法別スイム

(1) 目 的

泳法の習得及び、泳力の向上を図る。

(2) 内 容

指導員がその日の実施種目(クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライから1種目を選択)に応じた泳法指導を行う(キックの打ち方、腕の回し方、コンビネーション等)



(3) 総 評 (参加者等延べ15人)

当日の実施種目に応じてドリル練習を含めた泳法・泳力指導を行った。

25mをぎりぎり泳げる人から、全国障害者スポーツ大会の候補選手まで幅広い方が参加されたため、一斉指導と個別指導を併用して泳力レベルに応じて個別の指導を重視した形をとった。

日々の利用の中で、個々の課題を熱心に繰り返し練習される参加者の姿が見られた。

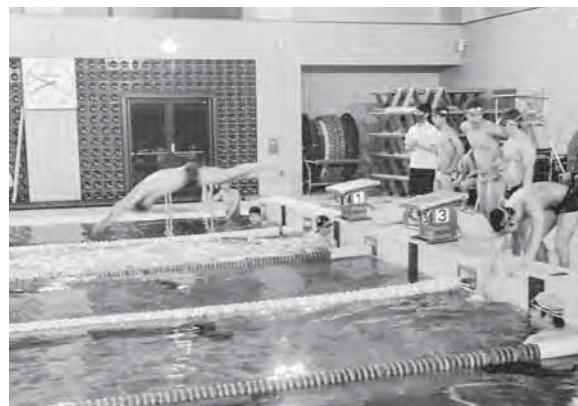
タイムトライアル

(1) 目 的

スタート練習とタイムの測定をすることで、大会に向けての調整に役立てる。

(2) 内 容

- ①ウォーミングアップ
- ②飛び込み練習(ワンポイントアドバイス)
- ③タイム測定



(3) 総 評 (参加者等延べ14人)

6回開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2回のみの開催となった。感染症対策として参加者を県内の方のみに制限し、指導員はプール用マスクの着用等を行った。

前半の30分を飛び込みとスタート練習にあて、後半をタイム測定とした。

今年度から、タブレット端末で撮影した映像をモニターに映し出した。映像を見て、自身でもフォームをチェックをすることができ、技術向上に役立てることができた。

体の使い方教室（幼児と親） 湖北・湖西

(1) 目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

(2) 内 容

- ①サークルでの運動(ストレッチ、補強運動)
- ②並列での運動(ハイハイ、高バイ、その場足ぶみ、両足ジャンプ、けんけん等)
- ③サーキット(基本運動とフープや牛乳パック、マット等を使ったコースを設定)



(3) 総 評 (受講者等延べ90人)

長浜バイオ大学ドームを会場に、長浜・新旭養護学校区の知的・発達障害のある4・5歳児と小学1・2年生を対象に開催した。

基本の動きや体の使い方は一人ひとりのペースですすめ、後半のサーキットでは、基本運動とチャレンジする内容を組み合わせて行った。

受講者からは、「教えてもらった体操を自ら家でもしていた」「親子ともに心地よく全部の回に参加させていただきました。親の私も体の使い方のポイントなどを知ることができ、意識や子どもに対する関わり方が変わりました」等の声をもらった。

体の使い方教室（ジュニア） 湖北・湖西

（１）目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで、開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

（２）内 容

- ①サークルでの運動（ストレッチ、補強運動）
- ②並列での運動（ハイハイ、高ばい、片足立ち、その場足踏み、ジャンプ、ケンケン等）
- ③サーキット（フープや牛乳パック、マット等を使ったコースを設定）



（３）総 評（受講者等延べ130人）

2年ぶりの地域開催となったが、以前に受講した方の参加が多く、スムーズに教室を実施することができた。

繰り返し同じ課題を行う中で、待つ・見る・我慢することができるようになり、見通しを持って取り組んでいた。また、自宅で保護者と一緒に復習するなど熱心に取り組まれ、前回できなかったことができるようになった。

受講者からは、「片足立ちや行進は家に帰って練習していた」「基本的な動作なので学校でもする機会が多く、身についてきている。楽しく体を動かせることで、運動を楽しめるようになった」などの声をもらった。

短期水泳教室 湖北・湖東

（１）目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

（２）場 所

甲良町保健福祉センター温水プール

（３）内 容

- 親子水泳：水慣れ・伏し浮き・背浮き・
介助の仕方・滑り台・サーキット
- 中学生以上：水中運動・水慣れ・水中姿勢・呼吸法・け伸び・背浮き・板キック・クロール



（４）総 評（受講者等延べ245人）

小学生対象の部を、親子での入水にしたことで、親の補助が加わり、それぞれ受講者に合わせた指導ができ、子どもの頑張りを間近で見られた保護者も大変喜ばれていた。

中学生以上の部では、前半の集団で行う取り組みは、体全体を使ったダイナミックな動きで運動量を確保し、後半は水慣れ・基本姿勢からクロール等の練習を行った。一つひとつの動きを繰り返し行うことで、自然と力が抜け、体を大きく動かし上手に使えるようになった。また、本人もできたことが自信になり「泳ぎたい」という意識が高まったように見受けられた。受講者の頑張っている様子や変化、できたことを保護者にも伝え、成果と成長を共有していきたい。

短期水泳教室 湖西

(1) 目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

(2) 場 所

高島市 B & G 温水プール

(3) 内 容

●親子初級・中級教室

(小学生の知的障害者とその親の部)

水慣れ・基本姿勢・呼吸法・け伸び・背浮き・バタ足・板キック・クロール等

●初級・中級教室(中学生以上の知的障害者の部)

基本姿勢・呼吸法・け伸び・背浮き・バタ足・板キック・クロール・背泳ぎ等

(4) 総 評 (受講者等延べ88人)

小学生の部は、父親との参加が多く、水の中での関わり方や介助方法について、個々に接しながら受講者に合わせた介助を伝えるようにした。

前半は、集団で行う取り組みの中で運動量も確保し、後半は泳力別グループに分かれて、水慣れ、基本姿勢からクロールや背泳ぎ等の練習を行った。

集団で行うことが、受講者同士に良い刺激となり、取り組む姿勢にも相乗効果が見られた。また、複数年続けての受講者が多く、5回の教室なりの積み上げが見られ、水慣れから泳ぎへつなげられるようになった。



障害者スポーツ体験指導事業

(1) 目 的

障害者団体からの要請に応じて、現地への職員派遣も含めて広く事業展開し、障害者の自立と社会参加の一層の促進を図る。

(2) 内 容

実 施 日	依 頼 先	内 容	人数
令和2年7月29日	滋賀県立聾話学校	車椅子バスケットボール	10人
8月13日	湖北地域障害者生活支援センターあーと	ボッチャ	17人
8月30日	遊★V I V A	プール活動	17人
11月12日	草津市志津更生会	ボッチャ	12人
令和3年1月26日	滋賀県立信楽学園	バスケットボール	18人
2月7日	大津市障がい者ホリデースクール青年部	ボッチャ、バランスボール	10人

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 4件

計6件

84人

パソコン教室

(1) 目 的

障害のある人がITの導入口としてスキルの向上を図り、IT利用促進の一助とし、受講者同士の親睦と交流を図る。

(2) 内 容

「MY(マイ)年賀状」をつくる

- ① ワード機能の復習をしながら年賀状を作成する
- ② 宛先一覧の作成を学ぶ
- ③ 印刷をして作品を発表する



(3) 総 評 (受講者等6人)

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、定員を割る応募となった。講師が横に付き受講者のパソコンを見ながら進めることから、換気、フェイスシールドや衝立など感染予防に気を付けて教室を開催した。

アシスタントや補助員の協力を得て、手厚い対応ができた結果、「リモートワークの勉強になった」「昨年受講して理解できないところがあったが今回解決した」との声が聞かれ、スキル向上の一助となった。

茶道教室

(1) 目 的

障害のある人が茶道教室に参加して、基本を身につけ、茶道を楽しみ情操を豊かにするとともに、受講者同士の交流と社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

- ① 稽古に必要な諸道具の名前を覚える
- ② お菓子のいただき方とお茶のいただき方の練習
- ③ 割稽古(帛紗さばき、棗・茶杓・茶碗の清め方、茶筌通しの仕方等)
- ④ 個々の能力に応じたお点前^{てまえ}を学び、通してできるように練習を行う



(3) 総 評 (受講者等延べ79人)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、茶道裏千家淡交会の対策等を参考にしながら、衛生管理を徹底し、受講者を半分に分けて教室を開催した。

受講者にとっては、開催日数も縮小され、普段のお稽古とは違う規制の多い中での受講となったが、「楽しみにしていた教室がやっと始まる」と茶道ができる喜びを感じておられた。アンケートでも、開講を喜び、配慮に感謝する言葉が多く聞かれた。

生け花教室

(1) 目的

障害のある人が生け花教室に参加して、季節折々の花を愛で楽しみながら、花を生け、情操を豊かにし、教養を高めるとともに、受講者同士の交流と社会参加への促進を図る。



(2) 内容

- ① 花材等の全般の説明
- ② 講師が見本を生けながら説明を行う
- ③ 講師の手本に倣いながら生ける
- ④ 生け終わった作品を講師に見ていただき、アドバイスを受ける
- ⑤ 質疑応答

(3) 総 評（受講者等延べ30人）

前回の反省から最初に講師が生けながら説明をして見本を仕上げ、その後受講者が見本を見ながら生ける方法で実施することで、受講者には見通しが持ちやすく、わかりやすいと好評であった。

教室の雰囲気は終始和やかで、お花で季節を感じることで、ひととき新型コロナウイルスの事を忘れて心穏やかな時間を過ごしてもらうことができた。

絵画教室スマイル😊

(1) 目的

障害のある人が気軽に参加できて、自由に表現できる場を提供し、文化活動の振興の一助とする。

(2) 内容

- ① “自由制作”というテーマに沿って自分の作品を制作する
- ② 仕上がった作品を他の受講者の前で発表する



(3) 総 評（受講者等延べ88人）

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全7回開催を5回に縮小しての開催となった。

受講者は一人ひとりが色々なことを思い、時には講師のアドバイスを受けながら絵に真摯に向き合っており、できた作品は、個々の豊かな感性が表現されている。

また、今年度は今までとは異なり、「1回で完結」ではなく、1つの作品ができるまで継続して制作する形にした。その結果、時間を気にすることがなくなり、色をたくさん使う事ができたり、細かい所まで丁寧に描きこんだりする事ができるなど受講者の新たな可能性を発見することができた。受講者自身も最後まで時間をかけてやり遂げた達成感と満足感を得ることができた。

手作り体験教室

(1) 目 的

障害のある人が、手作り体験教室に参加し、季節を感じる花材を使用し楽しみながら情操を豊かにするとともに、受講者同士の積極的な親睦と交流の推進を図る。

(2) 内 容

【正月飾りの作製】

- ① 花材等の全般の説明
- ② 講師の手本に倣いながら制作する
- ③ 制作が終わった作品を講師に見ていただき、アドバイスを受ける
- ④ 質疑応答

(3) 総 評（受講者等9人）

今回は、盆栽にも使われる立派な「五葉松」、松ぼっくり、サンキライ等を使って、お正月飾りを制作した。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、申込が少なく少し寂しい教室となったが、立派な作品が出来上がり、「新しい年を気持ちよく迎えらる」「玄関飾りにぴったり」と受講者が大変喜ばれた。



ハーバリウム教室

(1) 目 的

障害のある人が、流行のインテリアフラワーとして人気の高いハーバリウムを楽しみながら体験し、作品をつくとともに、受講者同士の交流と社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

- ① 花材等の全般の説明
- ② 講師の手本に倣いながら制作する
- ③ 制作が終わった作品を講師に見ていただき、アドバイスを受ける
- ④ 質疑応答

(3) 総 評（受講者等19人）

流行のハーバリウムということもあり、10人の定員のところ14人もの応募があった。受講者はハーバリウムを体験できることを楽しみにされており、「素敵な作品ができた」と全員の作品を机に並べ、互いの作品を鑑賞し合った。

また、今回は多くの視覚障害の方が受講され、花材を手で触り、花の色、雰囲気を感じながら想像をふくらませ、作品をつくる楽しさを感じていただいた。



苔玉作り教室

(1) 目 的

障害のある人が苔玉作り教室に参加して作品を作り、植物を手入れする喜びや癒しを感じながら、受講者同士の交流と社会参加を図る。

(2) 内 容

- ①使用する材料の紹介
- ②講師が手順を説明しながら見本を制作
- ③講師のアドバイスを受けながら、受講者も苔玉制作



(3) 総 評（受講者等13人）

例年よりも募集定員を少なくするなど、人数制限等を含めた新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで、当センターでは初めてとなる苔玉作り教室を開催した。

植物の根を土で包んで苔を貼りつけ、丸く形を整えながらひもで縛る作業が難しく、苦勞する受講者が多かったが、講師のアドバイスを受け、完成した際には喜びやでき上がりにほっとする姿が見られた。

アンケートでは「ガジュマルの木が面白かったです」「楽しくて、あっという間に時間が終わりました」等、楽しい時間を過ごせたことが伺える声を多く聞くことができた。

将棋と囲碁のつどい

(1) 目 的

障害のある人となない人が共に参加し、お互いが触れあい交流を深めるとともに、親睦を図り棋力の向上と積極的な社会参加を促進する。

(2) 内 容

将棋・囲碁の自由対局



(3) 総 評（参加者等延べ47人）

新型コロナウイルス感染症の影響で、全10回開催予定の半分となる前半5回を中止した。再開にあたり、対面のシールドをはじめ新型コロナウイルス感染症対策を施し、安心して参加できることを心掛けた。参加を自粛されている方も多く、特に障害のある人の参加人数の減少は顕著にあらわれた。

参加者は、会場の雰囲気の変化に戸惑いながらも、将棋や囲碁に真剣に向き合われる様子が見られ、「コロナ対策をいろいろ工夫していただき、開催してもらえて嬉しい」等の声が聞かれた。

(1) 目 的

当センターにおいて開催している文化教室を、遠隔地の障害のある方に対し、在住地近隣で開催することにより、県民サービスの均一化を図るとともに、参加者同士の交流と社会参加を促進する。



(2) 内 容

①プリザーブドフラワーアレンジメント教室

湖西福祉圏域(湖西総合在宅サービスセンターほろん)

湖南福祉圏域(栗東ウィングプラザ)

②手作り教室(かんたん押絵)

大津福祉圏域(大津市立障害者福祉センター)

湖北福祉圏域(長浜市保健センターびわ分室)

※湖東福祉圏域(手作り教室)、東近江福祉圏域、甲賀福祉圏域については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(3) 総 評 (受講者等延べ40人)

地域の参加者には高齢の方も多いため、新型コロナウイルス感染リスクを考慮し、3福祉圏域で中止となったが、次年度に向けて地域との繋がりを切らさぬようにしていきたい。

3. 更生相談事業

医療相談

(1) 目 的

障害がある人に医療の専門的な立場から、障害の状態に応じた指導・助言を行い、障害者の健康管理、機能回復および体力の維持向上および社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

①対象者

当センターの利用者カードを所有している人で機能の維持や回復を望む人

②相談日時

原則として毎月1回、第2または第3水曜日 午後2時30分～4時30分(4枠)

③実施内容

(ア) 予備調査

- ・相談内容の把握(申込用紙)
- ・問診による各種チェック(障害内容、既往歴、現病歴、健康状態など)
- ・相談項目、日時の決定およびスタッフへの連絡調整

(イ) 健康状態の把握

身長、体重、血圧の測定等および問診

(ウ) 医療相談

- ・医師による各疾患相談、訓練内容の指導
- ・理学療法士による機能回復訓練の実技指導や日常生活での留意点などの指導

④相談内容

主な相談として

- (ア) 自宅におけるリハビリ内容について
- (イ) コロナ禍における日常生活の過ごし方
- (ウ) 具体的なリハビリ方法について
- (エ) 日常生活や運動実施時での注意事項

⑤担当スタッフ

医 師 琴浦 良彦 氏(整形外科)
理学療法士 小嶋 高広 氏・井上 卓也 氏
当センター指導員、看護師



(3) 総 評 (相談者等14人)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり5回の開催となった。

相談者は外出ができないことにより、体力や筋力が落ちたことを実感され、自宅でもできるトレーニングの方法を多くの方が希望された。

また、コロナ禍における日常生活で注意することやリハビリの方法についての相談が多かった。相談後は少し安心されたのか、「自宅で続けてやってみます」「しっかり感染対策をして気長にリハビリします」との声があり相談者の前向きな姿勢が伺えた。

理学療法士によるリハビリ相談

(1) 目的

理学療法士の立場から、障害の状態に応じたリハビリの指導・助言を行うことで、障害のある人の継続的なリハビリおよび自らがリハビリに取り組めるきっかけ作りとする。



(2) 内容

- ①リハビリ実施状況の確認
- ②リハビリ内容の相談について
- ③リハビリの指導
- ④日常生活、運動についてのアドバイス
- ⑤福祉用具、補装具等自助具についてのアドバイス

(3) 総評（相談者等8人）

医療相談により自宅でできるリハビリの指導を受けられた方が、日々継続してリハビリをするなかで、不安に思ったことやリハビリメニューをもう少し追加したい旨の相談があった。理学療法士の丁寧な指導により、相談者からは「またぜひ相談をしたい」「この追加メニューをさらに実施して筋力をつけていきたい」など前向きな声もあり、相談人数は少なかったが、一人ひとり時間をかけて丁寧に対応することで満足した様子が伺えた。

アドバイスタイム水中歩行

(1) 目的

水の特性を利用した水中での歩行や運動を通して、リハビリテーションの効果を高めるとともに、体力の増進と社会参加の促進を図る。



(2) 内容

- ① 理学療法士による水中でのアドバイス
- ② 指導員による水中歩行を中心とした、リラクゼーションの方法をアドバイス
- ③ 看護師による問診およびメディカルチェック

(3) 総評（参加者等延べ123人）

陸上とは違った水中での運動効果を、理学療法士の丁寧なアドバイスで無理なくできた。コロナ禍で限られた参加者ではあったが、日々の励みに水中歩行を健康の一助として継続している参加者が多かった。参加者からは「水中歩行が日課になっている」「最近姿勢が良くなってきた」「主治医から言われているよりも病気の進行が遅く感じる」などの声があり、継続することによる水中歩行の効果を実感してもらうことができた。

理学療法士による障害別水中運動教室

(1) 目 的

理学療法士の立場から、重度障害・脳血管障害・関節障害の各障害別に応じたりハビリ指導を行い、より効果的な水中運動を身につける。

(2) 内 容

障害別による水中運動、水中ストレッチ、リラクゼーション等の指導をする

(3) 総 評（参加者等延べ27人）

アドバイスタイム水中歩行から独立させて今年度から新規教室として立ち上げた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、重度障害者の参加がなく、ほとんどが関節障害者の参加だった。個人で取り組む水中歩行ではなくグループでの取り組みは参加者同士の交流の場にもなり、自然と笑顔がこぼれる雰囲気の中、理学療法士の指導を真剣に取り組んでおられた。参加者からは「一人よりも、みんなで一緒に参加するほうが楽しい」「グループでの指導はお互い確認できて解りやすく良かった」など障害に特化した指導を受けることで満足度は高かった。



地域支援 楽しく笑顔でリハビリ

(1) 目 的

地域において、パーキンソン病の人に障害やリハビリ等に関する専門的な指導、助言を行い、健康管理、機能回復、体力の維持向上および社会参加の促進を図る。

(2) 内 容

自宅でもできる体操・ボッチャ

- ①湖北圏域(長浜) 2回(中止)
- ②東近江圏域(東近江保健所) 1回(中止)
- ③甲賀圏域(甲賀保健所) 3回(中止)
- ④高島圏域(高島保健所) 3回(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回中止)
- ⑤湖東圏域(彦根保健所) 2回(中止)

(3) 総 評（受講者延べ5人）

地域開催を進めて8年目になったが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、高島圏域での1回開催のみとなった。コロナ禍であまり外出できず、体を動かすことが減っていることから、自宅でもできる体操と解りやすいルールで頭の体操にもなるボッチャを実施した。受講者とスタッフも一緒に楽しむことができ「参加して良かった」との声をもらった。レクリエーションを通して体を動かす機会や、スタッフではあったが他者との交流を図る機会にもなった。次年度は新型コロナウイルス感染症の収束を望み、今まで積み上げてきた多くの地域でこの事業を再開していきたい。



4. 養成・研修事業

ボランティア講座

(1) 期 日 令和3年3月21日(日)

(2) 受講者人数等 23人

(3) 目 的

当センターが主催する各種事業・教室に協力していただくボランティアに対し講座を開き、「障害に関する理解」を深めることで、ボランティア活動への意識の高揚を図る。



(4) 内 容

—講義—「障害者スポーツを通した障害の理解」

—実技—「車椅子バスケットボール体験」

—講師— びわこリハビリテーション専門職大学 准教授 安田 孝志 氏

(5) 総 評

講師は、自身の「理学療法士」「障がい者スポーツトレーナー」「車椅子バスケットボールチームの選手」としてのあらゆる活動の場面や立場から話をされた。

ボランティア活動として、「障害者スポーツをどのようにサポートしていくのか」について、体験事例などを踏まえ、受講者とディスカッションしながら進められ、実技では、実際に車椅子に乗車して車椅子バスケットボールを体験することで、受講者が当事者の目線に立ち、知り・考える良い機会としてもらった。

障害者スポーツ指導者研修会

(1) 期 日 令和3年3月21日(日)

(2) 受講者人数等 18人

(3) 目 的

障害のある人、障害のない人に対する簡単な体操・トレーニングを効果的に安全に行うために理学療法士により体の仕組み使い方について学習する。

(4) 内 容

—講義—「体の仕組み、関節の動きについて」

—実技—「自宅でできるトレーニングについて」

—講師— びわこリハビリテーション専門職大学 池谷 雅江 氏

(5) 協 力 滋賀県広域スポーツセンター

(6) 総 評

新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの着用や手指消毒、受講者同士の間隔を空けて席を設定する等を行った。

受講者は、県内の各地域でスポーツ指導をされている方が多く、「関節の働き、筋肉の動きを正しく理解できた」「自宅で取り組めるトレーニングでは、体の機能を把握することができた。効果も含めて伝えていきたい」等の感想が聞かれ、今後の指導で活かせる内容を提供することができた。



5. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

閉所状況

全館臨時閉所	4月1日（水）～ 5月31日（日）
プール閉鎖	4月1日（水）～ 6月 7日（日）
トレーニング室閉鎖	4月1日（水）～ 10月11日（日）

中止の主催事業・教室

	事業・教室名	開催日	中止回数
行事・交流	第30回記念夏まつり	令和2年 7月19日（日）	1
	スポーツ吹矢大会	令和3年 1月11日（月・祝）	1
スポーツ 入門教室	スポーツ吹矢定例会	令和2年 5月15日（金）～令和3年3月12日（金）	5
	フライングディスク教室	令和2年 5月16日（土）～ 5月30日（土）	3
介護予防	トータルプログラム教室	令和2年 5月24日（日）～12月 6日（日）	8
	ラジオ体操	令和2年 4月 2日（木）～令和3年3月31日（水）	-
ジュニア 対象教室	親子水泳教室	令和2年 5月16日（土）～7月 4日（土）	8
文化・教養	筆ペン教室	令和2年10月14日（水）～11月11日（水）	3
	ガーデニング教室	令和2年 5月16日（土）	1
更生相談 事業	楽しく笑顔でリハビリ教室	令和2年 4月23日（木）～令和3年3月11日（木）	12
	医療講演会・交流会	令和2年10月22日（木）～12月17日（木）	3
会 議	夏季期間日程調整会議	令和2年 5月 3日（日）	1

計46回

一部中止の主催事業・教室

	事業・教室名	開催日	中止回数	実施回数
スポーツ 入門教室	グラウンドゴルフ定例会	令和2年 4月10日（金）、 6月12日（金）	2	3
	アクアビクス教室	令和2年 4月25日（土）～ 6月27日（土）	3	8
	ハッスル教室	令和2年 5月10日（日）	1	4
	チャレンジボッチャ教室	令和2年 4月24日（金）、 6月26日（金）	2	4
	はじめてスイム教室	令和2年 4月17日（金）、 6月19日（金）	2	4
	障害者スポーツ指導支援	令和2年 7月 7日（火）～令和3年1月15日（金）	14	30
重度障害者 対象教室	水中らくらくアドバイス	令和2年 4月 2日（木）～ 6月 7日（日）	-	10
ステップ アップ 教室	卓球初級教室	令和2年 4月16日（木）～ 6月18日（木）	3	9
	卓球ラリートタイム	令和2年 4月16日（木）～ 6月18日（木）	3	9
	水泳選手育成教室	令和2年 4月10日（金）～ 6月26日（金）	11	32
	バスケットボール選手育成教室	令和2年 4月15日（水）～ 6月 3日（水）	6	30
個別 サポート	水泳個別アドバイス	令和2年 4月 2日（木）～ 8月30日（日） 令和3年 2月16日（火）～ 2月28日（日）	-	59
	健康・運動個別アドバイス	令和2年 4月 2日（木）～10月11日（日）	-	1
測定・評価	体組成測定会	令和2年 6月14日（日）	1	-
バックアップ	琵琶湖一周に挑戦	令和2年 4月 2日（木）～ 6月 7日（日）	-	閉鎖を除く 利用可能日
	日本縦断に挑戦	令和2年 4月 2日（木）～10月11日（日）	-	
	泳法別スイム	令和2年 5月 9日（土）	1	
	タイムトライアル	令和2年 4月4 日（土）～ 8月16日（日）	4	
地域支援	障害者スポーツ福祉体験指導事業	令和2年 4月 2日（木）～ 6月30日（火）	-	6
文化・教養	茶道教室	令和2年 5月 9日（土）～ 7月11日（土）	3	6
	生け花教室	令和2年 6月 7日（日）、 7月 5日（日）	2	4
	絵画教室スマイル☺	令和2年 5月10日（日）～ 7月12日（日）	3	5
	将棋と囲碁のつどい	令和2年 4月26日（日）～ 7月26日（日）	4	6
更生相談 事業	医療相談	令和2年 4月15日（水）～ 6月10日（水）	3	5
	理学療法士によるリハビリ相談	令和2年 4月11日（土）～ 6月 6日（土）	3	4
	アドバイスタイム水中歩行	令和2年 4月15日（水）～ 6月24日（水）	6	14
	理学療法士による障害別水中運動教室	令和2年 4月15日（水）～ 6月10日（水）	4	9
	地域支援楽しく笑顔でリハビリ教室	令和2年 6月 4日（木）～11月12日（木）	6	1
会 議	月間日程調整会議	令和2年 4月 5日（日）、 5月 3日（日）	2	10

計89回

利用時間 午前9時30分～午後8時30分

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため利用時間を変更

午前の部 9時30分～12時(プールは10時から)

午後の部 13時～16時(30分短縮)

夜間の部 17時30分～20時(30分短縮)

施設管理上の対策

- ・職員の体調管理(検温をしてからの出勤、マスクの着用等)
- ・受付に飛沫予防シートの設置
- ・各所に飛沫予防ついたての設置
- ・AI検温装置の設置
- ・オゾン発生器の設置(各更衣室)
- ・空気清浄機の設置(会議室、小アリーナ、トレーニング室等)
- ・自動手指消毒器の設置
- ・館内および備品等の光触媒施工
- ・更衣室内のシャワー、ハンドドライヤー、ボディドライヤーの使用禁止
- ・ウォータークーラーの使用禁止
- ・施設のテレビ視聴禁止(長期滞在の防止)
- ・利用者使用後の消毒作業
- ・館内椅子の間引きおよびキッズスペースの撤去
- ・プール団体専用、教室専用時間の設定(水、金の午前中に集める等)
- ・各施設の利用人数制限
- ・貸出物品の制限(消毒できない物)
- ・トイレの自動洗浄化
- ・常時換気
- ・大型ポスター等による感染防止啓発等

利用者へのお願い

- ・マスクの着用および入館時の検温・手指消毒・体調チェック
- ・利用を県内在住者に制限(ヘルパー等の介助者は除く)
- ・団体者名簿および本日の利用者チェックリストの提出(利用団体)
- ・個人情報チェックリストの提出(当センターの利用者カードを所持していない方)
- ・プール利用制限(プールカレンダーにて利用可能日を周知)
- ・トレーニング室一般利用制限
- ・食事の禁止
- ・不要不急の滞在禁止

6. 臨時閉所に伴う情報発信

新型コロナウイルス感染症による臨時閉所期間中に、運動不足解消の一助となるよう、トレーニング写真に動きやポイントを解説したものを当センターホームページや広報誌県身協(8200部/回)を利用して紹介した。

【自宅でできる簡単トレーニング1】

内容：「椅子に座ってできる筋力トレーニング」

総評：前年度のトータルプログラム教室で実施していた内容を、再度見直したうえで情報発信を行った。利用者からは、「実際にやってみた」「選手のトレーニングに利用させてもらいます」等の声が聞かれた。自宅で過ごす機会が多い方々に、良い情報が提供できた。

【自宅でできる簡単トレーニング2】

内容：「床でできる運動」「座ってできる運動」「立ってできる運動」

総評：「自宅でできる簡単トレーニング1」よりもストレッチ的要素を多く含んだ内容とした。当センター広報誌にも掲載し、「自宅でできる簡単トレーニング1」より多くの方々に紹介することができた。利用者からは「座ってもできるので、なまっていた体を少しずつほぐしたい」「運動不足の自分には大変ありがたい内容になっている」等の感想が聞かれ、運動不足解消の一助となっていることが伺えた。

7. プール閉鎖（1月6日～2月14日）に伴う臨時開催教室

プール改修工事で、実施することができなくなった事業・教室について、場所および内容を変更し、臨時教室として開催し、利用者へ提供した。

エアロビクス教室

(1) 期 日 令和3年1月23日(土)

(2) 参加人数等 14人

(3) 目 的

体力の維持増進・機能回復と社会参加の促進を図る。

(4) 内 容

①ウォーミングアップ：ストレッチ

②椅子を使用しての動作

③基本動作：上・下半身、前後左右の移動、ステップ等の部分動作

④クールダウン：ストレッチ、リラックス

(5) 総 評

アクアビクス教室をエアロビクス教室に変更して実施した。

新型コロナウイルス感染症対策として、椅子の間隔を広く取りソーシャルディスタンスを取って開催とした。

毎月アクアビクスを受講されている方が参加された。音楽に合わせて椅子に座っての動きや立って椅子を持ちながらの動き等プールとは違う動きを体験してもらった。

参加者からは、「心身ともに良い刺激になった」「アクアビクス教室と同じ先生で安心した」「先生が良かった」等の声が聞かれ、講師への信頼度から安心して教室参加されたことが伺えた。



理学療法士による健康教室

- (1) 期 日 令和3年1月 6日(土)
令和3年1月20日(土)
令和3年2月 3日(土)

- (2) 参加人数等延べ 29人

- (3) 目 的

理学療法士による専門的な立場からアドバイスタイム水中歩行の参加者に水中での動きを補うためのストレッチや水中ではできない動きやリハビリの指導・助言を行うことで継続的にリハビリに取り組める一助とする。



- (4) 内 容

①ストレッチ(1/6) ②ボールを使つての体幹強化(1/20) ③歩行・起居動作の強化(2/3)

- (5) 総 評

毎回各テーマにあわせて2人の理学療法士から、自宅でできるストレッチやボールを使つての体幹の強化、歩行や起き上がりに必要な筋肉を鍛える方法を具体的に指導をしていた。また、その後は個別対応により助言をいただき、参加者からは「自宅でもできるトレーニングを丁寧に教えていただき満足できた」「コロナ禍で運動不足で困っていた。水中での動きと陸上での動きについての違いを一緒に考えていただくことができて良かった」「プールばかり参加していたが、陸上でのリハビリも疲れが取れてリフレッシュができた」などの声があった。プールとは違つたりハビリ相談も取り入れたことは、参加者のリハビリ意欲や気分転換の場にもなった。

指導員による運動指導教室

- (1) 期 日 令和3年1月27日(水)
令和3年2月10日(水)

- (2) 参加人数等延べ 25人

- (3) 目 的

集団でのストレッチやトレーニングを通して、楽しみながら運動をできる機会を提供し、運動意欲の向上や、健康の維持・増進および社会参加の促進につなげる。



- (4) 内 容

ストレッチ、セラバンドを用いた筋力トレーニング、自宅でできる簡単トレーニング等

- (5) 総 評

普段プールを利用してリハビリをされている方が、プール閉鎖期間中でもリハビリを継続できるよう開催した。新型コロナウイルス感染症対策として、指導員のマスク着用、教室開始前の手指消毒、換気の徹底、椅子の間隔をあける等を行った。

参加者が楽しみながら運動ができるよう和やかな雰囲気を保ちながら、普段から手軽にできるよう、座つての運動内容を指導した。

参加者からは「どこの部位を動かしているのか意識をすることが大切だとわかった」「セラバンドは今後も続けたい」等の感想が聞かれ、運動意欲の向上や、健康の維持増進への意識を高めることができた。

地域ボッチャ教室

(1) 期 日

令和2年12月3日～令和3年2月27日

(2) 参加人数等 84人

6地域 多賀町・長浜市・高島市・東近江市
大津市・近江八幡市

(3) 目 的

3月14日に開催するボッチャ交流大会に向け、各7福祉圏域において、ボッチャ競技の普及および交流会のPRを兼ねて実施する。

(4) 内 容

ボッチャのルール及び練習方法の紹介
交流大会の競技説明

(5) 総 評

福祉圏域毎の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の状況が拡大しつつあったため、各市町での開催に変更をした。9市町から申し込みがあったが、各市町への開催日が近くなるとともに感染状況がさらに拡大し悪化したため、最終6市町での開催となった。

市町によって実力差はあるが、「上手になりたい」という思いのもと参加があり、熱心に取り組んでおられた。投球前に目標を自己申告し、申告通り正確に目標に近づけることができたかどうか、分析したり戦術を練ったりしながら熱心に練習されていた。



8. 登録ボランティア

(1) 令和2年度 ボランティア登録状況

登録者数 76人 (更新者 65人 新規者 11人)

(2) 事業協力者数一覧

事業名	協力者数
夏休み わくわく体験広場	7人
第37回 水泳記録会	17人
障害者啓発イベント 清掃	11人
障害者啓発イベント レッツイベント	12人
はつゆめランド	5人
ボッチャ交流大会	6人

延べ 全58人

(3) スポーツ・文化教室協力者数一覧

アリーナ開催教室

事業名	協力人数
卓球初級教室・ラリータイム	28人
グラウンドゴルフ定例会	11人
チャレンジボッチャ教室	2人
バスケットボール選手育成	6人

延べ 全47人

文化教室

事業名	協力人数
生け花教室	4人
茶道教室	7人

延べ 全11人

9. お客様アンケート調査

本調査は、センターが行っている事業、受付窓口や職員の対応などのサービス提供の現状について、利用者が評価することにより、サービスのレベルや事業運営執行上の課題を客観的に把握し、これを事業運営の見直しやサービス改善に反映させ「サービスの質の向上」を図ることを目的としている。

調査日時：令和2年8月13日（木）～9月30日（水）

回答件数：107件

1.回答者の属性

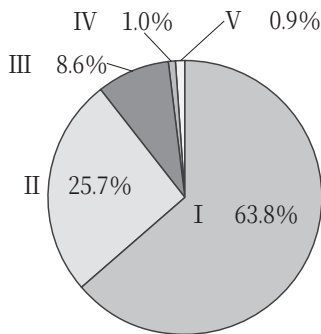
①性別	男性	53人	女性	49人	無回答	5人						
②年齢	20歳未満	14人	20歳代	24人	30歳代	17人	40歳代	12人	50歳代	16人	60歳代	13人
	70歳代	10人	80歳代	1人	無回答	0人						
③障害区分	視覚	6人	聴覚	24人	肢体	27人	内部	0人	知的	18人	精神	2人
	情緒	0人	重複	0人	介助者	7人	一般	14人	その他	4人	無回答	5人

※グラフの見方

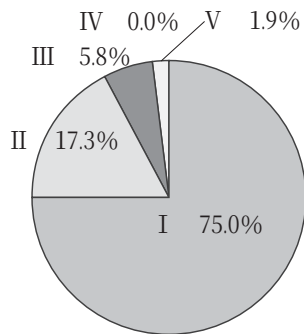
【選択】 I とてもそう思う II まあそう思う III どちらともいえない IV あまりそう思わない V 思わない

2.受付窓口について

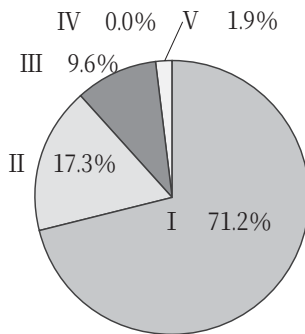
①施設や利用方法に関する
受付の説明は分かりやすい



②受付における対応は迅速
での確である

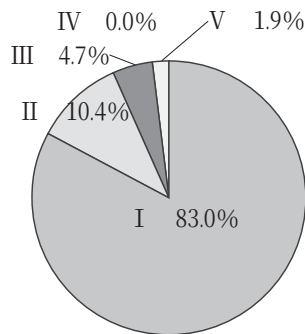


③個人情報を守られている

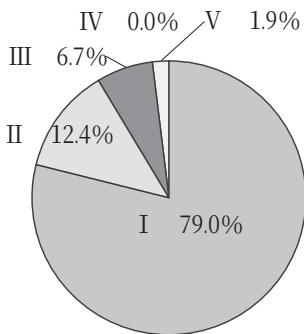


3.職員の対応について

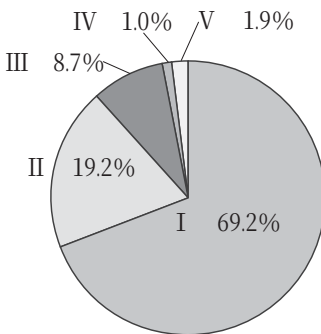
①職員の言葉遣いや態度は
丁寧である



②職員はあなたの話を十分に
聞いてくれる

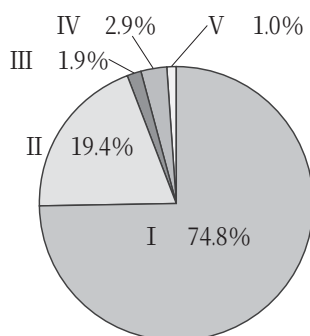


③不満や要望についてきち
んと対応してくれる

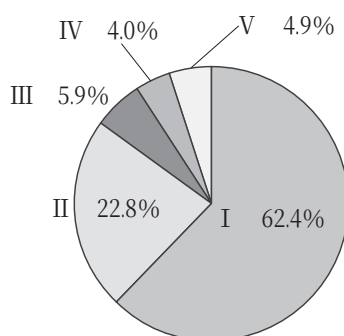


4.設備や環境について

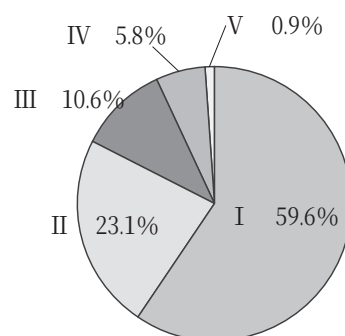
①館内は清潔に保たれている



②館内の照明は適当である

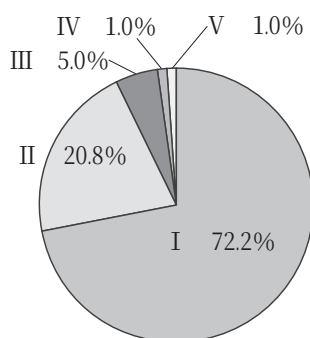


③館内の温度は適切である

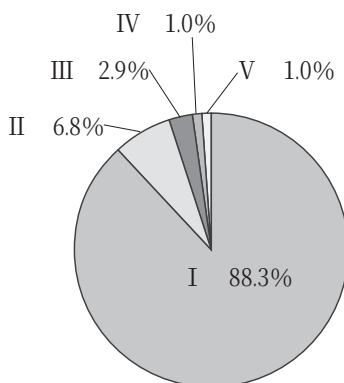


5.総合評価について

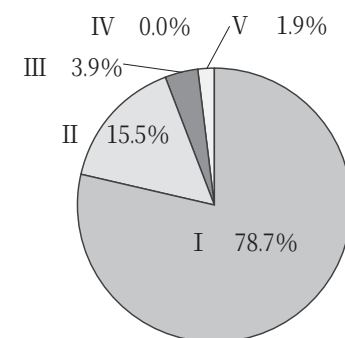
①当センターは良いサービスを提供している



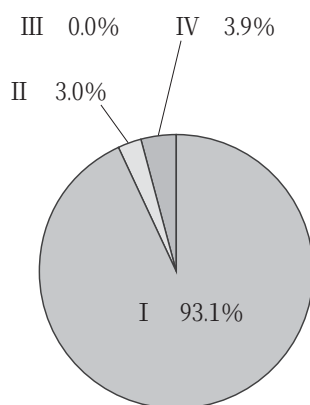
②今後も当センターを利用する



③必要としている人がいれば、当センターの利用を勧めたい



6.新型コロナウイルス感染症 拡大防止対策について



I：適切である
II：不足している
III：やり過ぎである
IV：どちらとも言えない

総 評

令和2年度お客様アンケートにおいて、ほぼ全ての項目で非常に高い評価をいただきました。また、日頃よりご利用いただく中で気づかれた点もご意見としていただき、対応させていただくことができた。次年度以降もご利用いただく方からの貴重なご意見をいただける場として活用し、よりよいセンター運営につなげられるようにしたい。

10. 広報・啓発事業

広報・啓発

(1) 目的

障害者団体をはじめ、行政機関、施設利用者ならびに施設見学者等に対し、当センターの概要や事業内容等について周知を図る。

(2) 内容

①印刷物

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| ・「センターだより」年4回各 8,200部 | ・「2019年度年報」 200冊 |
| ・「事業案内ポスター」B2 300枚 | ・「事業案内チラシ」A4 12,000枚 |
| ・「利用カレンダー」ポケットサイズ 4,000枚 | ・「点字版 利用カレンダー」 20部 |
| ・「点字版 事業案内チラシ」 20部 | ・「音声版 事業案内チラシ」 10部 |
| ・「点字版 利用者アンケート」 40部 | ・「音声版 利用者アンケート」 1部 |

②広報

行事、教室等のお知らせや受講者の募集を広く県民等に周知するため、県・市町広報誌、各新聞紙面等に登載依頼をした。また、当センターの概要や施設の予約状況等最新の情報等をホームページに掲載した。なお、新型コロナウイルス感染症に伴うセンターの利用制限や事業、教室の変更等についてもホームページや館内の掲示等で周知に努めた。

③情報提供

来所者のふれあいの場(ラウンジ)に月刊誌や季刊誌等を常備し、福祉情報等を提供していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、書棚を一時封鎖した。館内はWi-Fi環境を整備し、情報入手の利便性を高めた。

④広聴

事業ごとにアンケート等を取り、広く意見を求めた。

⑤渉外活動

県内関係機関へ出向き、作成したチラシを配布し、周知を図った。

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| ・滋賀県庁障害福祉課、スポーツ課、国スポ・障スポ大会課 | |
| ・県内保健所(7か所) | ・滋賀県立リハビリテーションセンター |
| ・滋賀県立小児保健医療センター | ・滋賀県立精神医療センター |
| ・特別支援学校(16学校) | ・県内市町障害福祉担当課(19市町) |
| ・県内市町支所障害福祉担当課 | ・県内市町社会福祉協議会 |
| ・県内市町療育センター | ・県内市町教育委員会(19市町) |
| ・滋賀県障害者スポーツ協会 | ・滋賀県立視覚障害者センター |
| ・滋賀県スポーツ協会 | ・彦根子ども家庭相談センター |
| ・草津市立障害者福祉センター | ・大津市立障害者福祉センター 等 |

11. 自主事業

(1) 目 的

障害者福祉センターの設置目的に合致し、かつ管理業務の実施を妨げない範囲において障害者スポーツの振興と健康増進を図る。

(2) 内 容

①個別サポート

事 業 名	期 間	延受講者数
水泳個別アドバイス	通年	2 人
健康運動個別アドバイス	通年	0 人

②バックアップ教室

事 業 名	回 数	延受講者数
タイムトライアル	2 回	12 人

③地域支援 障害者スポーツ福祉体験指導事業

実 施 日	依 頼 先	内 容	人数
令和3年1月21日、28日	瀬田北中学校 1 年生	ボッチャ、車椅子バスケットボール	311 人

12. 運営会議等

(1) 福祉センター運営協議会

滋賀県立障害者福祉センターの効率的な運営を図るため、指定管理者である公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会会長は、障害者団体や関係団体、関係行政機関等から選出された委員で構成される「滋賀県立障害者福祉センター運営協議会」を設置している。

運営協議会委員

選出母体	役職名	委員氏名
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	会長	中村 裕次
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	副会長	脇 眞澄
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	理事長	崎山美智子
社会福祉法人滋賀県障害児協会	理事長	乗光 秀明
社会福祉法人滋賀県視覚障害者福祉協会	会長	大橋 博
一般社団法人滋賀県ろうあ協会	専従職員	塩尻 靖子
特定非営利活動法人滋賀県脊髄損傷者協会	理事長	前野 奨
特定非営利活動法人滋賀県難病連絡協議会	理事	駒阪 博康
障害者の生活と権利を守る滋賀県連絡協議会	副会長	海藤 尚武
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会	福祉用具センター技術副課長	谷 佳代
滋賀県障害者スポーツ協会	副会長	倉谷 義数
滋賀県児童成人福祉施設協議会	理事	吉田 和浩
滋賀県特別支援教育研究会	自閉症・情緒障害教育研究部会長	合田 幹生
滋賀県高等学校等教育研究会特別支援教育研究部会	草津養護学校長	井尻 正志
滋賀県立リハビリテーションセンター	専門員兼係長	高松 滋生
滋賀県立精神医療センター	地域生活支援部・社会復帰支援係長	加藤 郁子
滋賀県立むれやま荘	社会リハビリテーション課長	出野津与志

運営協議会開催状況

開催年月日	審議事項
令和2年8月28日	・2019年度事業の実施結果について 開設30周年記念事業実施結果について 施設利用状況 ・令和2年度施設管理運営状況について 新型コロナウイルス感染症対策 第4期指定管理 ・その他 休所を伴う工事について

(2) 福祉センター第三者委員会

公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が運営する滋賀県立障害者福祉センターで、提供する福祉サービスにおける利用者およびその家族等からの苦情に対し、社会性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な解決・改善に努めるため、第三者委員会を設置している。

第三者委員

機関・団体	役職名	委員氏名
同志社大学	中立的立場 助教	河西 正博
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	事業者代表 監事	太田千恵子
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	利用者代表 理事長	崎山美智子

第三者委員会開催状況

開催年月日	審議事項
令和3年2月25日	・2019年度苦情、要望等の解決状況について(2019年度の第三者委員会を、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため書面報告としたため) ・令和2年度苦情、要望の解決状況について ・報告(新型コロナウイルス感染防止対策、改修工事、第4期指定管理、令和3年度事業等)

13. 研修状況等

(1) 研修受講等

①資格取得： 体育施設運営士

研 修 名	実施月	主 催 者	受講者数
職員研修 実技研修 (バドミントン・フライングディスク)	4月	当センター 業務課	7人
職員研修 防災研修 (地震について・クロスロードゲーム)	6月	当センター	16人
福祉避難所の運営を考える(研究会)	8月	災害支援市民ネットワークしが	2人
職員研修 新型コロナウイルス感染症対策	9月	当センター	14人
職員研修 消防訓練	12月	当センター	16人
職員研修 実技研修(ボッチャ)	1月	当センター 業務課	11人
資格養成講習 公認体育施設運営士養成講習会	1月	(公財)日本体育施設協会	2人
職員研修 審判講習(ボッチャ)	2月	当センター 業務課	11人
職員研修 防災研修	3月	当センター	16人

延べ 95人

②県障害者スポーツ協会事業への派遣

内 容・場 所	期 日	人数
水泳競技 選手選考会(当センター)	8月23日	2人

③全国障害者スポーツ大会(鹿児島県)

合宿・練習会・大会に役員コーチとして1人派遣 ※大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(2) 研修生(実習)の受け入れ状況

目 的

実習は、実習生が当センターの機能および施設利用者のもつニーズに関して理解を深めるとともに、必要とする知識および実践の方法を習得し、もって障害者福祉の増進に寄与する。

学 校 ・ 施 設	人数	期 間
びわこ成蹊スポーツ大学	4人	令和2年9月16日～9月20日

Ⅱ クラブ活動

クラブ数 14

登 録 ク ラ ブ 名	セ ン タ ー で の 主 な 活 動 内 容
輪悠会（股関節障害者 水泳）	金曜日の午前練習
トップシャトル滋賀（バドミントン）	土曜日・日曜日・祝祭日の夜間練習 大会及び交流会を主催
LAKE SHIGA BBC （車椅子バスケットボール）	水曜日の夜間練習 近畿リーグ及び各大会参加
滋賀県ろうあ協会 卓球部	土曜日の夜間練習 各大会参加
滋賀県H I T T Oアーチェリークラブ	土曜日・日曜日・祝祭日の午前練習 各大会参加・大会主催
I N F I N I （車いすツインバスケットボール）	金曜日の夜間練習
滋賀車いすテニスクラブ	土曜日の夜間練習 各大会参加
滋賀県障害者フライングディスク協会	火曜日・金曜日の夜間練習 大会及び講習会主催
レイク・イーグルス（電動車椅子ホッケー）	金曜日の夜間練習 交流試合実施
びわこ卓球クラブ	月1回土曜日の午後練習 大会主催
グローバルハート（球身動）	木曜日の夜間練習 演武会開催
ホワイトドラゴンズ （精神障害者ソフトバレーボールクラブ）	土曜日の夜間練習 各大会参加
ライトニング滋賀（ボッチャ）	木曜日の夜間練習 各大会参加
M. S. T（車椅子卓球）	火曜日・水曜日・土曜日・日曜日の夜間 練習・各大会参加

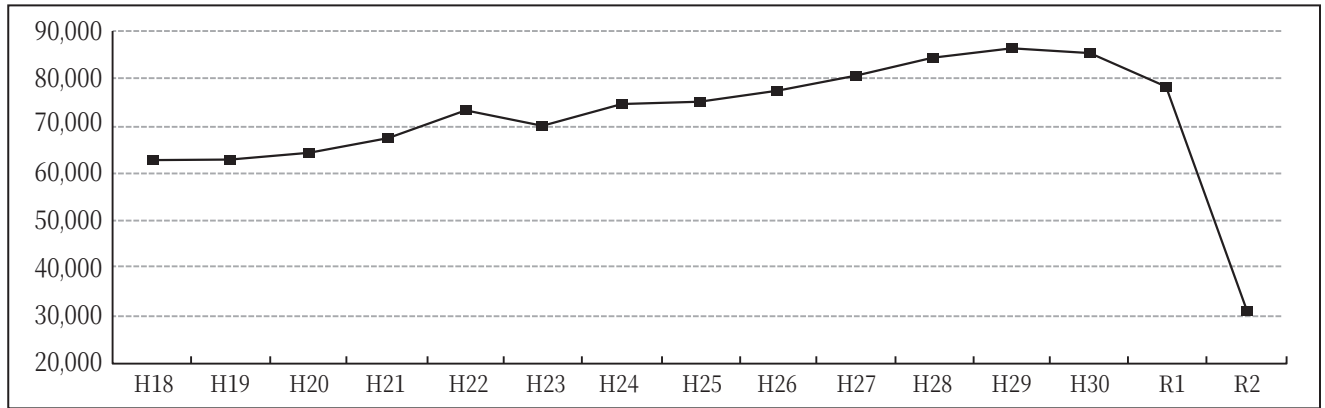
Ⅲ 利 用 状 況

概 要

令和2年度の当センター利用は、開所日233日で延べ人数30,770人となり、延べ累計人数は1,970,694人となった。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月1日から5月31日まで臨時閉所となり、利用者数は大幅に減少した。

年度別利用者数



年度	年間利用者数	年度	年間利用者数	年度	年間利用者数	年度	年間利用者数
H2	29,454人※1	H10	55,086人	H18	62,770人	H26	77,487人
H3	54,302人	H11	65,934人	H19	62,867人	H27	80,350人
H4	57,264人	H12	65,877人	H20	64,231人	H28	84,387人
H5	54,889人	H13	62,747人	H21	67,227人	H29	86,091人
H6	52,373人	H14	60,325人	H22	73,063人	H30	85,248人
H7	53,751人	H15	61,378人	H23	70,035人	R1	77,991人※3
H8	48,350人※2	H16	60,179人	H24	74,331人	R2	30,770人※3
H9	52,743人	H17	64,297人	H25	74,897人		

※1 開所月（8月）からの利用人数

※2 病原性大腸 O-157 感染防止のためプール閉鎖

※3 新型コロナウイルス感染症による臨時閉所や利用制限

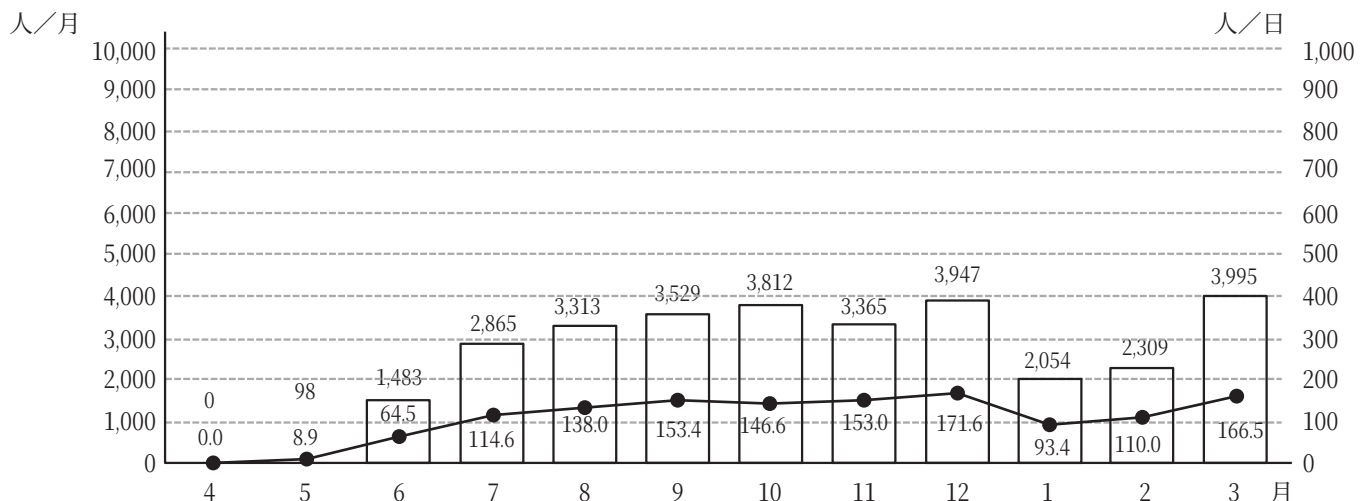
月別延利用状況および1日平均利用者数

利用状況は、新型コロナウイルスの影響により全体で前年度対比約39.5%にとどまり、全体的に低くなっている。

大会やイベントを開催できた3月が3,995人と最も多く、次いで12月の3,947人となっている。

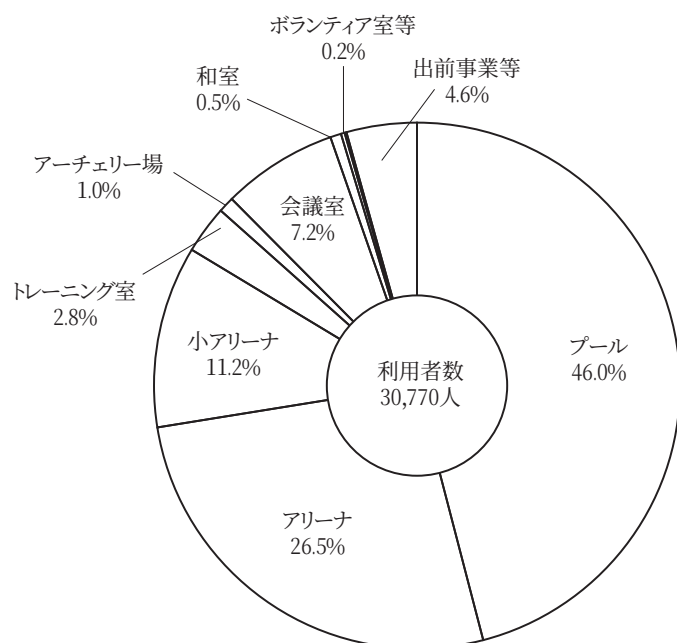
最も少ない月は、6月の1,483人となっている。（臨時閉所の月を除く）

1日当たりの平均利用者は、年平均で126.1人、3月では166.5人、12月は171.6人となっている。



施設別利用状況

施設利用状況をみると、プール 14,166人(46.0%) が最も多く、アリーナ 8,143人(26.5%)、小アリーナ 3,456人(11.2%) の順となっている。これを個人・団体別にみると、個人利用では、プール 9,650人(89.3%)、トレーニング 867人(8.0%)、となり、団体では、アリーナ 8,123人(43.8%)、プール 4,516人(24.4%)、小アリーナ 3,439人(18.5%) の順となっている。

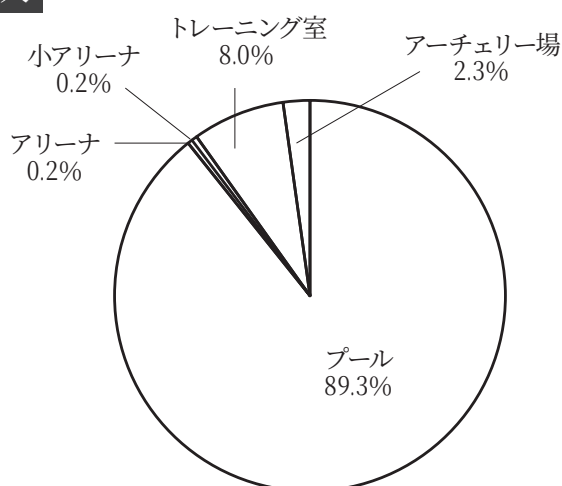


(単位：人)

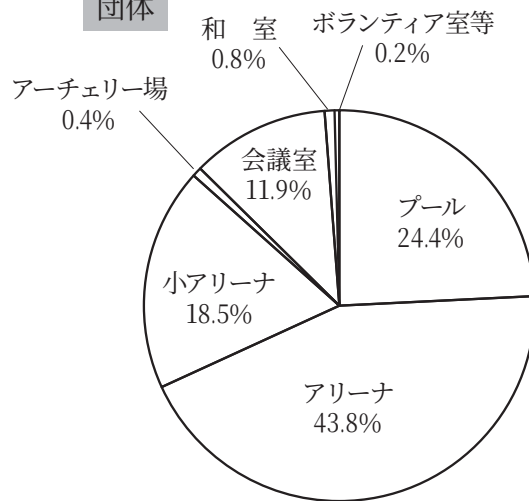
施 設	利用者数	利用割合
プ ー ル	14,166	46.0%
ア リ ー ナ	8,143	26.5%
小 ア リ ー ナ	3,456	11.2%
ト レ ー ニング 室	875	2.8%
アーチェリー場	321	1.0%
会 議 室	2,211	7.2%
和 室	143	0.5%
ボランティア室等	39	0.2%
夏まつり等	0	0.0%
出前事業等	1,416	4.6%
合 計	30,770	100.0%

個人、団体別利用状況

個人



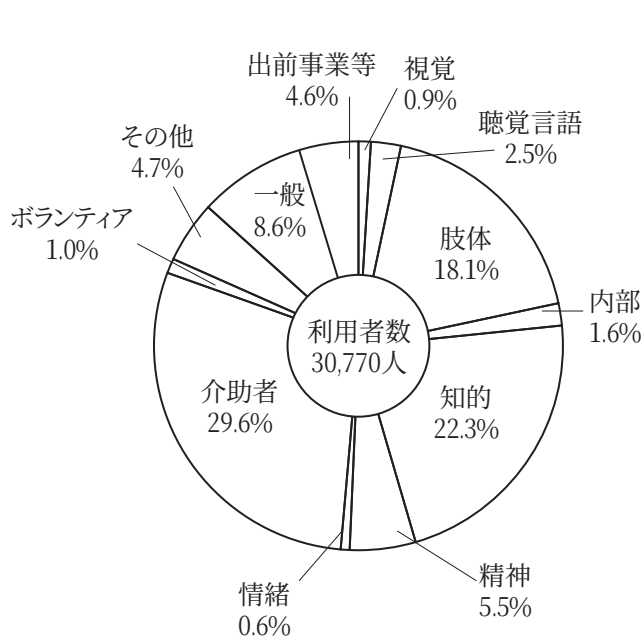
団体



(単位：人)

	プー ル	ア リ ー ナ	小 ア リ ー ナ	ト レ ー ニング 室	アーチェリー場	会 議 室	和 室	ボランティア室等	夏まつり等	合 計
個 人	9,650	20	17	867	248	0	0	3	0	10,805
団 体	4,516	8,123	3,439	8	73	2,211	143	36	0	18,549

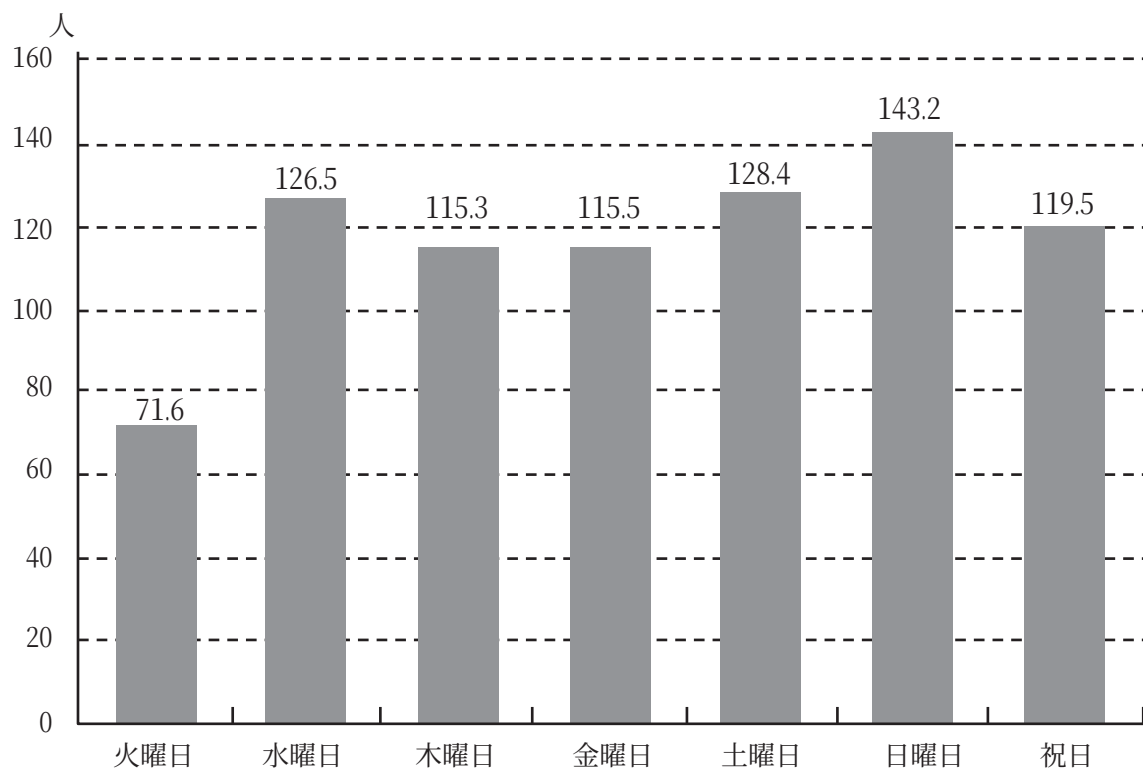
障害別等利用状況



障 害 等	利用者数	利用割合
視 覚	268	0.9%
聴 覚 言 語	777	2.5%
肢 体	5,579	18.1%
内 部	495	1.6%
知 的	6,847	22.3%
精 神	1,679	5.5%
情 緒	175	0.6%
介 助 者	9,118	29.6%
ボ ラ ン テ ィ ア	302	1.0%
そ の 他	1,461	4.7%
一 般	2,653	8.6%
夏 ま つ り 等	0	0.0%
出 前 事 業 等	1,416	4.6%
合 計	30,770	100.0%

曜日別利用状況

曜日別の1日当たりの平均利用状況をみると、日曜日 143.2 人、土曜日 128.4 人となっている。



地域別・障害別利用状況(実人数)

障 害	個 人										利 用				貸 切 り 利 用							合 計				
	大 津 市	彦 根 市	長 浜 市	近江八幡市	草 津 市	守 山 市	栗 東 市	野 洲 市	湖 南 市	甲 賀 市	高 島 市	東近江市	米 原 市	湖 東	小 計	県 外	小 計	学 校 施 設	障 害 者 団 体	登 録 ク ラ ブ	セ ン タ ー 主 催		行 政	そ の 他	一 般	小 計
視 覚	6	0	0	0	34	2	2	48	0	1	5	0	0	0	98	0	98	2	72	0	86	0	2		162	260
聴覚言語	5	0	0	39	52	44	1	0	1	0	0	0	0	0	142	0	142	15	347	184	41	0	0		587	729
肢 体	1,214	0	1	7	668	146	183	6	77	22	11	0	0	0	2,335	1	2,336	261	635	1,417	709	0	3		3,025	5,361
内 部	236	0	0	2	108	16	38	3	0	2	0	2	0	1	408	0	408	0	27	5	49	0	0		81	489
知 的	969	1	0	41	1,165	172	290	153	43	60	2	3	0	1	2,900	3	2,903	1,026	740	320	1,090	0	0		3,176	6,079
精 神	385	4	0	0	153	65	175	6	71	10	0	4	0	4	877	0	877	466	70	142	90	0	0		768	1,645
情 緒	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	8	144	14	0	6	0	0		164	172
介助者	1,090	0	1	49	1,133	256	316	191	13	45	4	4	0	1	3,103	3	3,106	1,273	1,423	1,483	1,202	0	0		5,381	8,487
ボランティア	23	0	0	0	73	1	0	0	0	3	0	0	0	0	100	0	100	0	0	0	130	0	0		130	230
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	273	463	26	392	10	70		1,234	1,234
一 般															827		827						1,697		1,697	2,524
合 計	3,936	5	2	138	3,386	702	1,005	407	205	143	22	13	0	7	10,798	7	10,805	3,460	3,791	3,577	3,795	10	75		16,405	27,210

月別・施設別利用状況

(単位：人)

月 施設	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数	月平均
プー ル	0	2	701	1,476	1,703	1,666	2,172	1,801	1,936	0	712	1,997	14,166	1,288
アリーナ	0	78	453	839	782	1,022	783	801	967	810	695	913	8,143	740
小アリーナ	0	6	105	280	350	448	441	325	474	312	325	390	3,456	314
トレーニング室	0	0	0	0	0	0	102	60	125	201	184	203	875	80
アーチェリー場	0	0	68	19	33	20	57	23	8	1	40	52	321	29
会議室	0	12	151	195	355	294	176	130	265	182	171	280	2,211	201
和室	0	0	5	20	35	31	3	10	20	3	0	16	143	13
ボランティア室等	0	0	0	0	0	13	9	7	10	0	0	0	39	4
医務室	0	1	106	194	167	169	193	160	194	44	116	224	1,568	143
計	0	98	1,483	2,865	3,313	3,529	3,812	3,365	3,947	2,054	2,309	3,995	30,770	2,797
出前事業等	0	0	0	36	55	35	69	208	142	545	182	144	1,416	
開所日数	0	11	23	25	24	23	26	22	23	22	21	24	244	
日平均		8.9	64.5	114.6	138.0	153.4	146.6	153.0	171.6	93.4	110.0	166.5	126.1	
夏まつり等延べ人数				0	夏まつり等と自主事業は区分なしであるため合計に計上している									

(注) 合計には、医務室の利用人数を含まない。

施設別・障害別利用状況

(単位：人)

場所 障害	プール	アリーナ	小アリーナ	トレーニング 室	アーチェリー 場	会議室	和室	医務室	ボランティア 室等	合計	構成比 (%)	月平均
視覚	109	83	25	1	0	46	4	34	0	268	0.9%	24
聴覚言語	110	447	90	8	55	58	6	3	3	777	2.5%	71
肢体	2,358	1,845	418	274	184	486	10	1,139	4	5,579	18.1%	507
内部	306	26	10	110	0	43	0	222	0	495	1.6%	45
知的	3,703	1,434	1,345	142	0	189	34	138	0	6,847	22.3%	622
精神	700	609	117	208	0	37	8	26	0	1,679	5.5%	153
情緒	14	142	18	0	0	1	0	0	0	175	0.6%	16
介助者	4,323	2,899	1,326	132	35	357	40	0	6	9,118	29.6%	829
ボランティア	117	119	11	0	0	55	0	0	0	302	1.0%	27
その他	40	320	87	0	8	939	41	0	26	1,461	4.7%	133
一般	2,386	219	9	0	39	0	0	6	0	2,653	8.6%	241
計	14,166	8,143	3,456	875	321	2,211	143	1,568	39	30,770	100.0%	2,797
夏まつり等と自主事業は区分なしであるため合計に計上している									出前事業等	1416	4.6%	
									夏まつり延べ人数	0	0.0%	

(注) 合計には、医務室の利用人数を含まない。

月別・障害別利用状況

(単位：人)

月 障害	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
視 覚	0	0	16	33	32	33	27	22	28	15	26	36	268
聴覚言語	0	2	70	104	90	42	67	80	82	63	65	112	777
肢 体	0	33	372	566	571	668	684	550	600	263	448	824	5,579
内 部	0	0	41	57	64	42	69	42	54	24	35	67	495
知 的	0	8	286	754	840	906	846	739	765	409	521	773	6,847
精 神	0	20	111	200	146	192	225	175	194	96	139	181	1,679
情 緒	0	3	9	17	7	20	20	36	20	15	13	15	175
介 助 者	0	24	484	1,057	1,068	1,269	1,082	947	1,008	475	685	1,019	9,118
ボランティア	0	0	0	2	17	21	31	86	58	15	16	56	302
そ の 他	0	8	89	33	321	191	131	76	237	106	86	183	1,461
一 般	0	0	5	6	102	110	561	404	759	28	93	585	2,653
計	0	98	1,483	2,865	3,313	3,529	3,812	3,365	3,947	2,054	2,309	3,995	30,770
出前事業等	0	0	0	36	55	35	69	208	142	545	182	144	1,416
夏まつり等延べ人数							0						

夏まつり等と自主事業は区分なしであるため合計に計上している

曜日別・月別利用者状況

(単位：人)

曜日 月	火	水	木	金	土	日	祝	出前事業等	計
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	4	19	16	14	34	11	0	0	98
6	61	269	223	176	379	375	0	0	1,483
7	107	628	417	383	490	531	273	36	2,865
8	184	477	479	522	712	753	131	55	3,313
9	163	636	436	573	751	728	207	35	3,529
10	309	752	696	703	680	603	0	69	3,812
11	101	350	615	585	542	712	252	208	3,365
12	321	579	547	574	751	1,033	0	142	3,947
1	144	138	270	329	297	259	72	545	2,054
2	89	258	351	358	438	437	196	182	2,309
3	235	828	678	634	576	716	184	144	3,995
計	1,718	4,934	4,728	4,851	5,650	6,158	1,315	1,416	30,770
開所日数	24	39	41	42	44	43	11		244
一日平均	71.6	126.5	115.3	115.5	128.4	143.2	119.5		126.1

IV 利用者 と 支える 人 の 声

現在成長中

法澤 佐苗

私が人工股関節の手術をして約 13 年、センターにお世話になって約 11 年、その 2 カ月後には輪悠会に入らせてもらい、今に至っています。その日以来、私の生活は病院のリハビリとセンターに行ってプールで歩いたりという日々が変わってきました。お陰様で今では人工股関節は体の一部となり何の違和感もなく過ごしています。また、センターは私の生活にとってなくてはならない所となりました。今現在、運動面ではプール、アクアビクス、卓球、セラバンド等々、文化面ではガーデニング、手作り雑貨等楽しく参加させて頂いています。

こうした活動を継続してきたことで、卓球では 6 分間のラリーを一度も失敗しないで打ち続けられるようになり、プールでは背泳ぎとクロールが 25m まであと 2 歩くらいまで泳げるようになりました。また、グラウンドゴルフ大会では 2 年続けてホールインワン賞を頂きました。写真コンクールでは、ハスの花を撮って銅賞を頂きました。本当にセンターにはお世話になり、随分と成長させて頂き、これからも通える限りは頑張ります。

いつ行っても職員の方々はやさしく笑顔で対応してくださり、丁寧にご指導していただき、いつも感謝しています。

このコロナ禍の時期、外出や食事、自粛生活の最中ですが、お陰様で私はセンターに行って運動をさせて頂くのは本当に有難い事です。

これからも体の続く限り頑張っておこなった行事に参加しますので、宜しくお願いします。本当に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

障害を忘れられる場所

河瀬 優花

私は生まれつき両足に障害があります。ですが、人一倍スポーツをする事が好きです。

私が初めて福祉センターを利用したのは小学 6 年生 12 歳の頃でした。姉の影響でバドミントンに興味がありましたが、立ってバドミントンをするのは、足に障害がある私には難しく、楽しさをあまり感じられませんでした。小学校の先生が私に、車椅子バドミントンの体験会がある事を教えてくれました。ですが、不安な気持ちがあり、あまり乗り気ではありませんでした。母に背中を押されて行ってみると、想像していたよりとても楽しかったです。そこから何度も通い始めました。

他にも、私は水泳を習うことにしました。幼い頃からやっていたので、つかみが早くどんどん成長して、記録が良くなっていくのが嬉しかったです。

センターの人達はいつも笑顔で接してくれるので、その日の練習がとても頑張れます。そして、センターに来ると自分と同じように障害がありつつも、明るく過ごしている人を見ると自分が障害者である事を忘れるくらい元気になれます。

これからもたくさん学んで、大会で良い結果が残せるよう頑張りたいと思います。

プールと恵拓のあゆみ

岡山 真希

息子の恵拓が初めて障害者福祉センターに来たのは3、4歳頃だったかと思います。その頃は多動も激しく、週末になると大きな公園や野山を歩き回るといった遊びが主で、何とか屋内で過ごせないか、プールならどうか、と思ったのがきっかけでした。初めての日は、中に何があるのかわからず不安だったのか、なかなかセンター内に入ろうとせず、玄関の前でずいぶんと時間を過ごしたように記憶しています。

その後プールで遊べることがわかってからは、「プール行く？」と毎日のように聞いてくれるほどになりました。10歳になった今では一人で入ることもあり、受付で「ぼくは一人でプールに入りたいのです！」と気合い十分にスタッフさんに伝えています。他にも水泳個別アドバイスや親子水泳教室など、とにかく対象になるものには参加し、楽しませてもらっています。

利用する中でありがたく感じるのは、設備の安全さ、清潔さ、などに加えて、何といっても職員の方々の温かい見守りです。利用中の安全確保という意味ではもちろんのこと、恵拓の成長を利用開始当初から今まで、見守り、時には一緒に喜び、できるようになったことをほめてくださいます。本当にゆっくりのあゆみですが、長きにわたって一緒に見てくださるところがあるというのはありがたく、心強く感じます。これからも、長い目で見守っていただければうれしく思います。

目的を持った活動提供を！

社会福祉法人 虹の会 田中 大貴

地域活動支援センター「わになろう」では、指導支援事業を利用し、14年が経過しました。

利用開始当時、私は障害のある方の休日に余暇支援を提供するデイサービスに勤務しておりました。障害のある方の中には、散歩や外出といった一般的には当たり前とされている行為が困難な方がおられます。また、養護学校等卒業後、運動機会が極端に減少してしまう状態であったため、体重増加・健康への影響が懸念されていました。

私たち職員は運動不足解消のため、何とか運動活動を企画してはいましたが、運動に関しての知識・経験共に乏しく、また、道具等少ない中では企画する内容は在り来たりとなっていました。そのような中、センターの方から指導支援事業を紹介していただき、本格的なスポーツからレクリエーションを通した運動等、障害のある方が理解でき、楽しめる企画を提供・進行していただくことで、私たち職員は利用者支援に専念でき、笑顔で活動する利用者の方に寄り添うことが可能となりました。センターの方の関りから、職員の新たな気付きや学びにもつながりました。

継続的な利用により、利用者一人ひとりの性格や障害特性を理解し、個々に応じた関わりを持っていただけることで、障害のある方にとって安心して過ごせる居場所となっています。また、職員だけではない第三者との交流が有意義であると実感しています。

V 施設の概要

1. 設置目的

心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、心身障害者の教養の向上、健康増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る。

2. 建設の経緯

- (1) 昭和61年 7月11日 身体障害者福祉センターA型検討委員会設置
- (2) 昭和62年 3月 身体障害者福祉センターA型整備の基本構想の結果報告
- (3) 平成元年 7月 3日 建築工事着工
- (4) 平成 2年 4月 1日 滋賀県立障害者福祉センター開設準備室設置
- (5) 平成 2年 6月27日 建築工事完工
- (6) 平成 2年 8月 1日 滋賀県立障害者福祉センターに名称変更
- (7) 平成 2年 8月 4日 開所式
- (8) 平成 2年 8月 7日 一般開放
- (9) 平成 8年11月 4日 多目的トイレ新築工事着工
- (10) 平成 9年 3月27日 多目的トイレ新築工事完工
- (11) 平成 9年 4月 1日 多目的トイレ供用開始
- (12) 平成14年 2月20日 正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置及び多目的トイレへオストミー対応化工事(1ヶ所)

3. 建設の内容

- (1) 所在地 滋賀県草津市笠山八丁目 5 番 130 号
- (2) 規 模 敷地面積 12,679m²
建築面積 4,067,676m² 延床面積 3,970,219m²
- (3) 構 造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）勾配屋根平屋建
- (4) 建築工事費 約 12 億 2 千万円
- (5) 障害者への配慮
 - ア 正面玄関等に誘導チャイム
 - イ 玄関ホール等に点字案内施設図
 - ウ 所内外に点字誘導ブロック
 - エ 正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置
 - オ 屋外からの出入口に感知式自動開閉扉
 - カ 各室出入口に半自動開閉扉
 - キ 廊下に所内案内点字付き手すり
 - ク 身体障害者用便器・洗面器
 - ケ ナースコール（プール、アリーナ、トイレ、更衣室等から事務室へ）
 - コ 会議室に集団補聴設備（テレホンコイル付き補聴器受信可能）
 - サ 多目的トイレに自動扉・ウォシュレット 11 台設置・収納式多目的シート
オストミー対応・（人工肛門・膀胱造設者） 1 ヶ所

- シ 冷暖房設備、床暖房設備（プールサイド、プール男女更衣室）
 ス 車椅子で飲める水飲み器
 セ 文字放送地上デジタルテレビ
 ソ 公衆ファックスの設置（平成8年）
 タ 全館にスプリンクラーによる消火設備
 チ 玄関及び観覧ホールに AED 設置
 ツ アーチェリー場に雨よけ屋根設置

(6) 施設の内容

施 設 名	面積(m ²)	内 容
ア リ ー ナ	809.47	バスケットボール、バレーボール、テニス、バドミントン等のライン区画 各種スポーツ用具、バスケットボール用電光掲示板、放送設備等設置、冷暖房設備完備
		付帯施設：男女更衣室、車椅子置場、器具庫
小 ア リ ー ナ	135.71	卓球（サウンドテーブルテニス・一般）、遊具設置
トレーニング室	95.36	トレッドミルやエアロバイク等 10 種類の運動トレーニング器具を設置
温 水 プ ー ル	750.76	FRP 製 25 m× 13 m（6 コース）、水深 1.35m ～ 1.55 m 日本水泳連盟公認、水温 30℃、室温 32℃に設定 車椅子用入水スロープ、床暖房、プールフロアー（2 コース）、水中スピーカー、水質自動監視装置設置
		付帯施設：採暖室、男女更衣室、個室更衣室、身障者用トイレ、観覧ホール、器具庫
会 議 室	158.59	100 人収容、スライディングドアにより 3 室に間仕切り可能、集団補聴設備、ビデオプロジェクター設置
和 室	40.90	10 畳× 2 室、文化・教養活動用として利用
医 務 室	13.86	応急処置、医療相談、利用者の健康相談に利用
ボランティア室	51.32	ボランティア養成・交流・障害者団体交流用として利用
ラ ウ ン ジ	67.85	障害者福祉やスポーツに関する専門図書や資料を備え、障害者の情報提供の場、談話室として利用
そ の 他		多目的ホール、事務室
屋外アーチェリー場		9 的(30 m、50 m)
駐 車 場		72 台（うち車椅子用15台）

- (7) 令和2年度の主な改修工事
 ア プール外壁ガラスブロック工事
 イ プールガーター改修工事
 ウ 高圧受変電設備等改修工事
 エ 玄関横女子トイレ改修工事
 オ アリーナ電動カーテン改修工事等

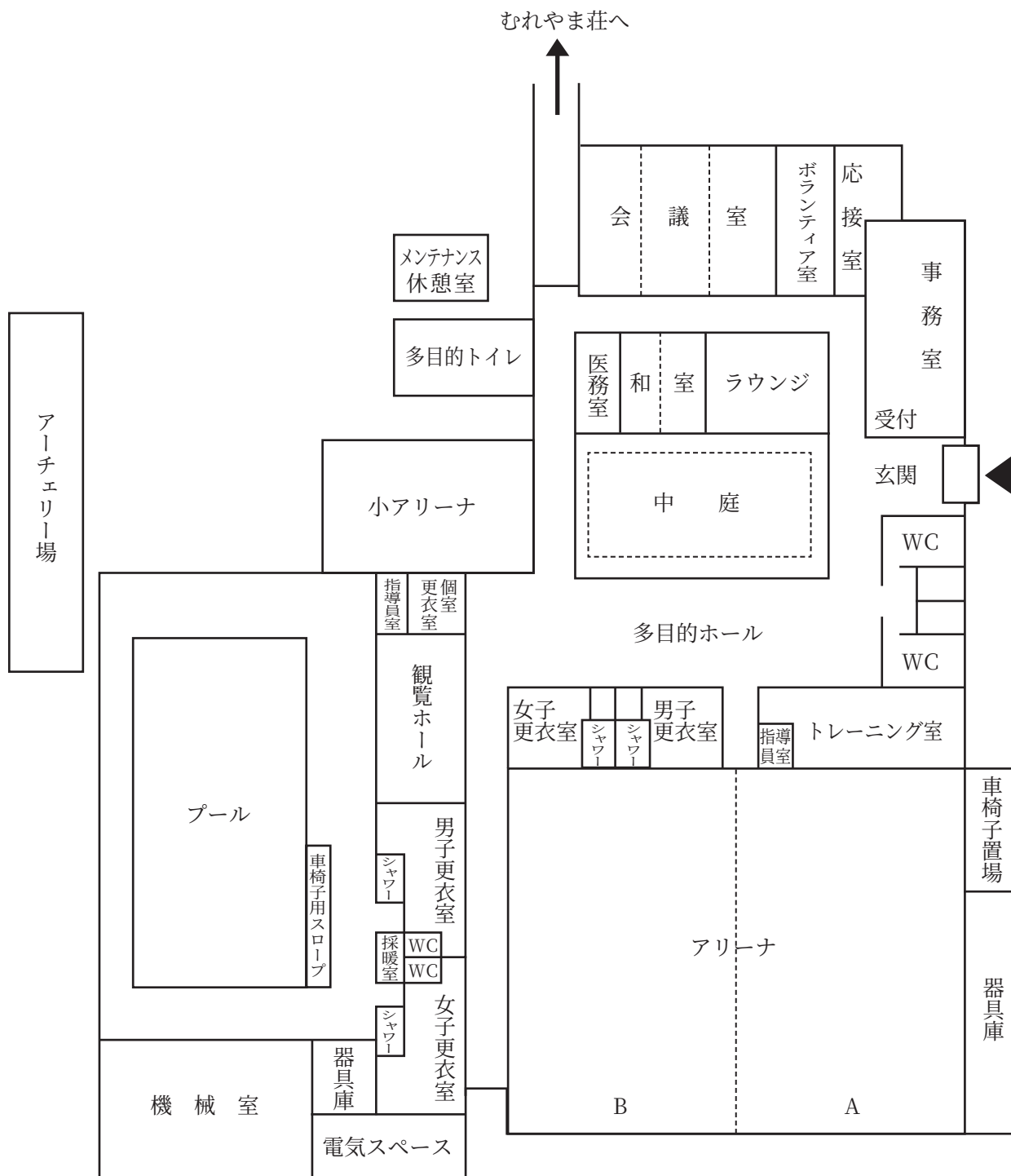
4. 管理・運営

- (1) 設置主体 滋賀県
 (2) 運営主体 指定管理者 公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会
 (3) 休 所 日 ・ 月曜日（休日である場合を除く。）
 ・ 休日の翌日（土曜日、日曜日または休日である場合を除く。）
 ・ 12月29日～翌年1月3日
 ・ 上記のほか管理者が定めた日
 (4) 開所時間 午前9時30分～午後8時30分
 (5) 利用時間

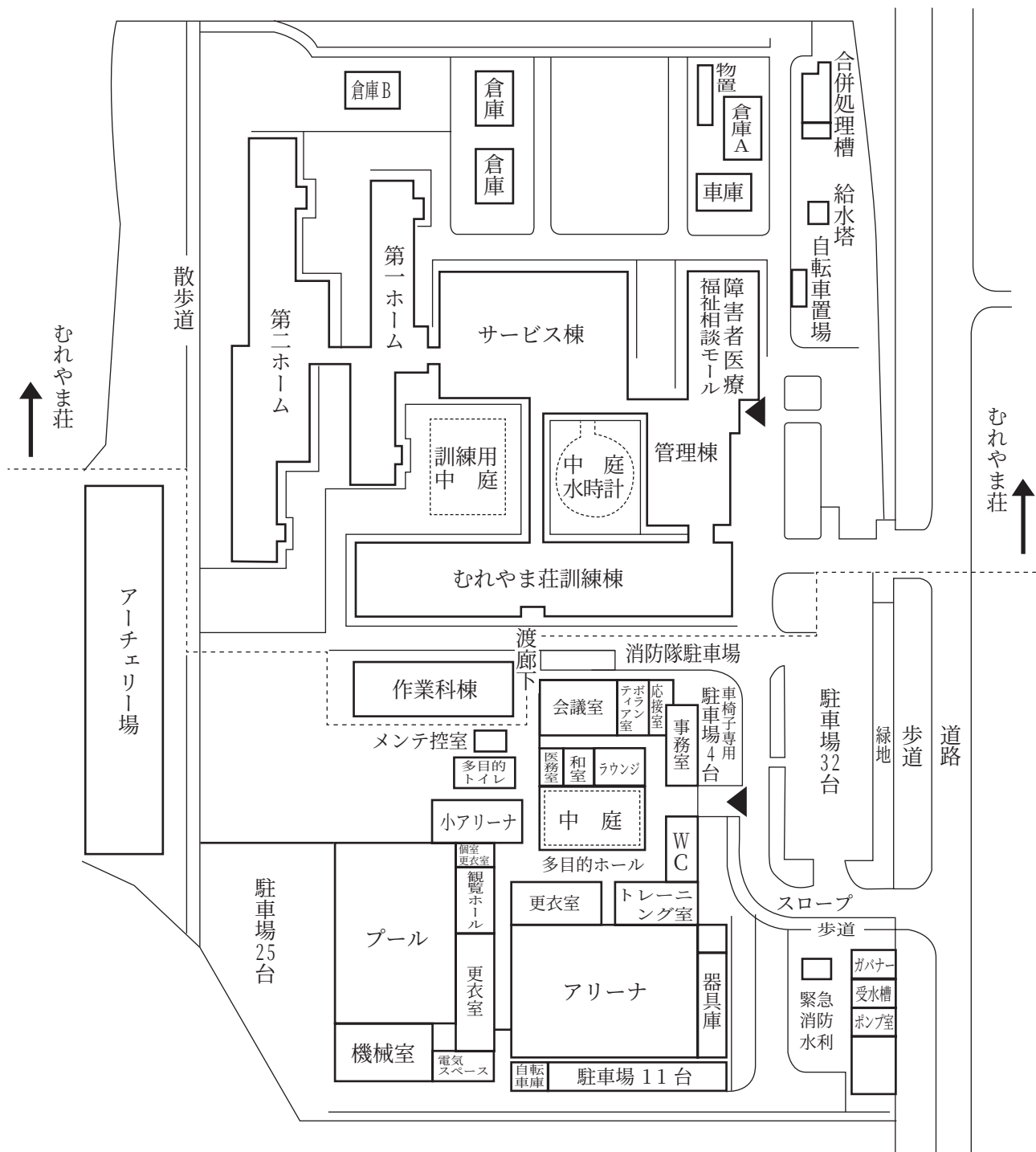
区 分	全 施 設
午前の部	9時30分 ～ 12時00分
午後の部	13時00分 ～ 16時30分
夜間の部	17時30分 ～ 20時30分

- (6) 利用対象者
 ア 身体障害者手帳所持者
 イ 療育手帳所持者
 ウ 精神障害者保健福祉手帳または精神障害の状態に関する証明書所持者
 エ 特定医療費（指定難病）受給者証所持者
 オ 小児慢性特定疾病医療受給者証所持者
 カ 前記ア～オに掲げる者とその障害が同程度と認められる者
 キ 前記ア～カに同行してきた介助者
 ク 登録ボランティア（障害者等の利用を妨げない程度）
 ケ 前記ア～カに掲げる障害者以外の者（障害者等の利用を妨げない限度において利用可）

平 面 図



配置図



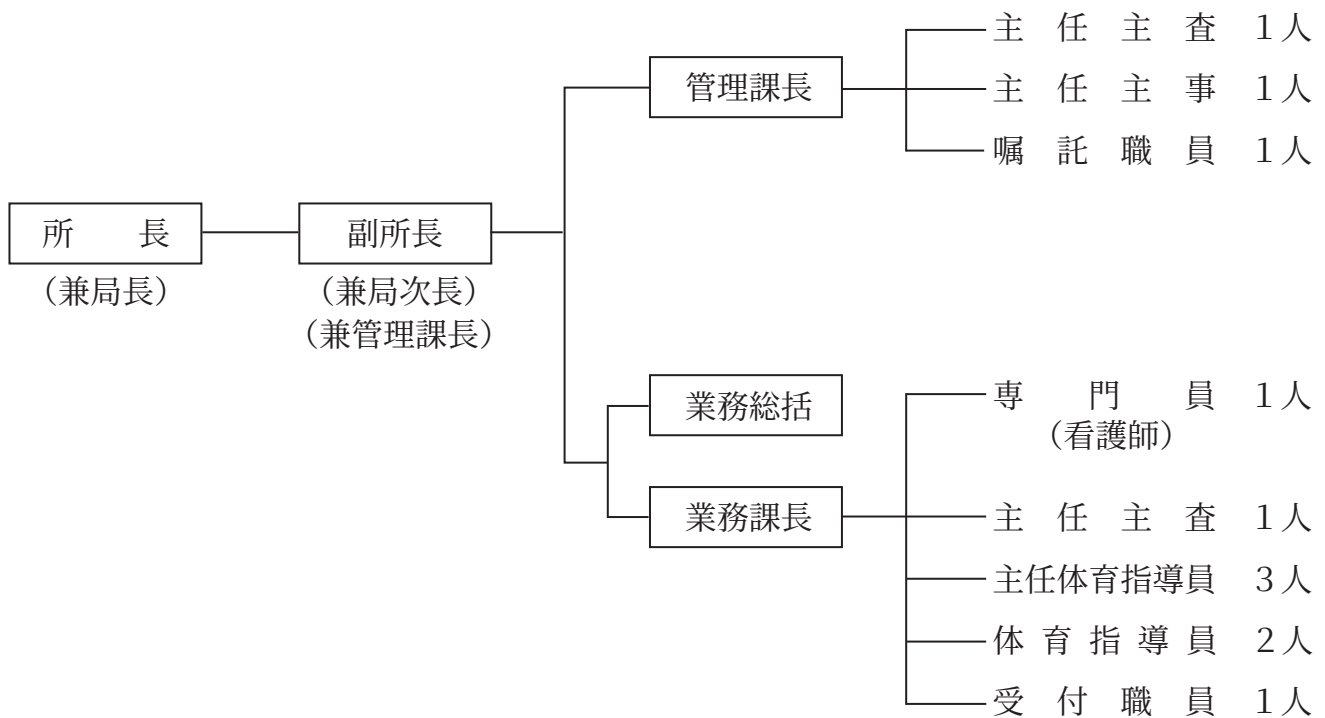
VI 組 織

1. 組織図

当センターは、公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が滋賀県から指定管理者としての指定を受けて、管理運営をしている施設です。

職員体制は表のとおりとなっています。

(令和 3 年 4 月 1 日現在)



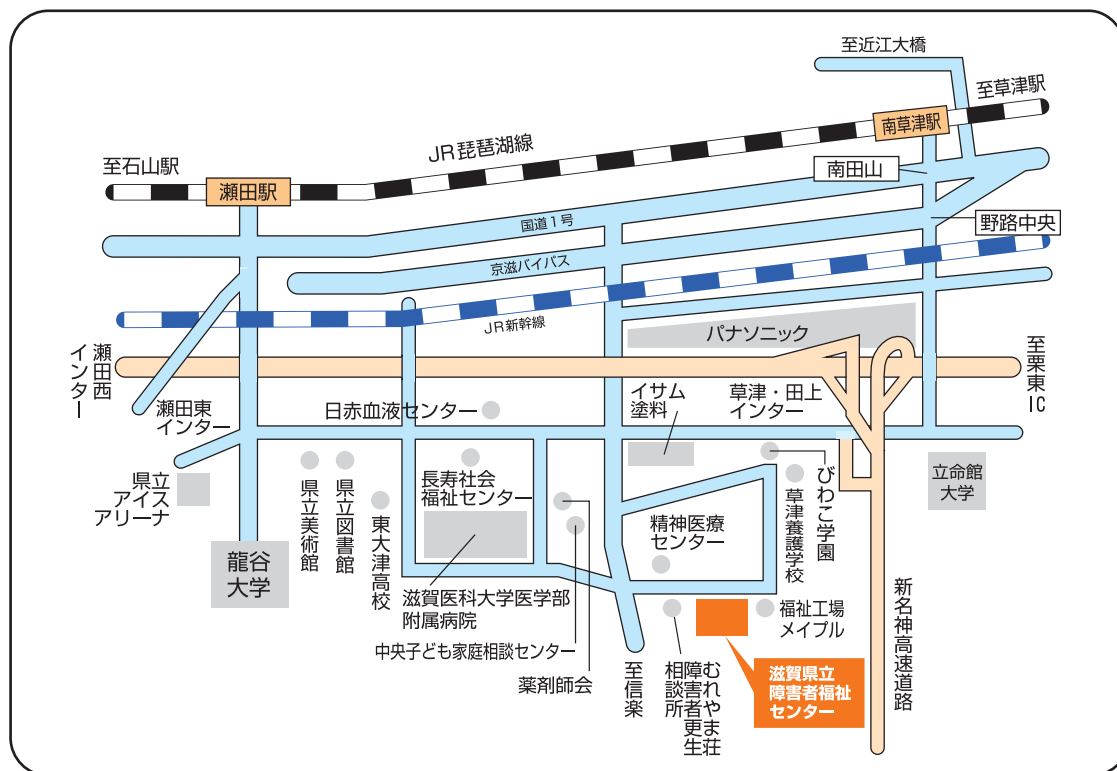
滋賀県立障害者福祉センター

〒525-0072 草津市笠山八丁目5番130号

TEL 077(564)7327 FAX 077(564)7641

<http://www.shiga-fukushi-center.com/>

E-mail webmaster@shiga-fukushi-center.com



●電車での来所

JR 南草津駅(バスのりば⑥番)から 総合福祉センター前下車

※ JR 南草津駅と障害者福祉センター間、路線バス(ノンステップ)が運行されています。(帝産湖南交通)

●高速道路利用の場合

名神・新名神高速道路 草津・田上インターから約3分